

【歴史文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M630001	歴史学英語論文実習	実習	1	後期	火3	ERICSON, Kjell David		歴史文化学系1
6631009	日本史学	特殊講義	2	後期	火2	上島 享		歴史文化学系2
6631002	日本史学	特殊講義	2	後期	火4	三宅 正浩		歴史文化学系3
6631001	日本史学	特殊講義	2	前期	火2	谷川 穰		歴史文化学系4
6631003	日本史学	特殊講義	2	前期	月4	笹川 尚紀		歴史文化学系5
6631016	日本史学	特殊講義	2	前期	木2	吉江 崇		歴史文化学系6
6631017	日本史学	特殊講義	2	後期	木2	吉江 崇		歴史文化学系7
6631014	日本史学	特殊講義	2	前期	木3	熊谷 隆之		歴史文化学系8
6631015	日本史学	特殊講義	2	後期	木3	熊谷 隆之		歴史文化学系9
6631004	日本史学	特殊講義	2	前期	月2	岩城 卓二		歴史文化学系10
6631005	日本史学	特殊講義	2	後期	月2	岩城 卓二		歴史文化学系11
6631008	日本史学	特殊講義	2	後期	月3	岩崎 奈緒子		歴史文化学系12
6631012	日本史学	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志		歴史文化学系13
6631013	日本史学	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志		歴史文化学系14
6631020	日本史学	特殊講義	2	後期	月3	西山 伸		歴史文化学系15
6631006	日本史学	特殊講義	2	前期	火4	福家 崇洋		歴史文化学系16
6631007	日本史学	特殊講義	2	後期	月4	市 大樹		歴史文化学系17
6631019	日本史学	特殊講義	2	前期	水2	宇佐見 隆之		歴史文化学系18
6631010	日本史学	特殊講義	2	前期	集中	藤原 重雄		歴史文化学系19
6631018	日本史学	特殊講義	2	後期	金4	鍛冶 宏介		歴史文化学系20
6631011	日本史学	特殊講義	2	後期	火5	内山 一幸		歴史文化学系21
M292002	日本史学	演習	4	通年	水3	吉川 真司		歴史文化学系22
M292003	日本史学	演習	4	通年	火5	上島 享		歴史文化学系23
M292001	日本史学	演習	4	通年	水5	三宅 正浩		歴史文化学系24
M292004	日本史学	演習	4	通年	金4	谷川 穰		歴史文化学系25
6731001	東洋史学	特殊講義	2	前期	火4	吉本 道雅		歴史文化学系26
6731002	東洋史学	特殊講義	2	後期	火4	吉本 道雅		歴史文化学系27
6731003	東洋史学	特殊講義	2	前期	月4	中砂 明德		歴史文化学系28
6731004	東洋史学	特殊講義	2	後期	月4	中砂 明德		歴史文化学系29
6731005	東洋史学	特殊講義	2	前期	木1	高嶋 航		歴史文化学系30
6731006	東洋史学	特殊講義	2	後期	木1	高嶋 航		歴史文化学系31
6731007	東洋史学	特殊講義	2	前期	水3	小野寺 史郎		歴史文化学系32
6731009	東洋史学	特殊講義	2	前期	木5	箱田 恵子		歴史文化学系33
6731010	東洋史学	特殊講義	2	前期	集中	上田 信		歴史文化学系34
6731011	東洋史学	特殊講義	2	前期	水2	辻 正博		歴史文化学系35
6731012	東洋史学	特殊講義	2	後期	水2	辻 正博		歴史文化学系36
6731013	東洋史学	特殊講義	2	前期	火1	矢木 毅		歴史文化学系37
6731014	東洋史学	特殊講義	2	後期	火1	矢木 毅		歴史文化学系38
6731018	東洋史学	特殊講義	2	前期	水4	承 志		歴史文化学系39
6731019	東洋史学	特殊講義	2	後期	水4	承 志		歴史文化学系40
6731021	東洋史学	特殊講義	2	前期	水3	太田 出		歴史文化学系41
6731022	東洋史学	特殊講義	2	後期	水3	太田 出		歴史文化学系42
6731023	東洋史学	特殊講義	2	前期	月2	宮宅 潔		歴史文化学系43
6731024	東洋史学	特殊講義	2	後期	月2	宮宅 潔		歴史文化学系44
6731025	東洋史学	特殊講義	2	前期	月4	村上 衛		歴史文化学系45
6731026	東洋史学	特殊講義	2	後期	月4	村上 衛		歴史文化学系46
6731027	東洋史学	特殊講義	2	前期	水1	古松 崇志		歴史文化学系47
6731028	東洋史学	特殊講義	2	後期	水1	古松 崇志		歴史文化学系48
6741001	東洋史学	演習I	2	前期	金3	吉本 道雅		歴史文化学系49
6741002	東洋史学	演習I	2	後期	金3	吉本 道雅		歴史文化学系50
6743001	東洋史学	演習II	2	前期	火5	中砂 明德		歴史文化学系51
6743002	東洋史学	演習II	2	後期	火5	中砂 明德		歴史文化学系52
6745001	東洋史学	演習III	2	前期	金1	高嶋 航		歴史文化学系53
6745002	東洋史学	演習III	2	後期	金1	高嶋 航		歴史文化学系54
6749001	東洋史学	演習	2	前期	月2	石川 禎浩		歴史文化学系55
6749002	東洋史学	演習	2	後期	月2	石川 禎浩		歴史文化学系56
6749003	東洋史学	演習	2	後期	水3	小野寺 史郎		歴史文化学系57
M303001	東洋史学	演習	2	前期	金5	吉本 道雅		歴史文化学系58
M303002	東洋史学	演習	2	後期	金5	吉本 道雅		歴史文化学系59
M303003	東洋史学	演習	2	前期	月5	中砂 明德		歴史文化学系60
M303004	東洋史学	演習	2	後期	月5	中砂 明德		歴史文化学系61
6831004	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	木3	仁子 寿晴		歴史文化学系62
6831005	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	月3	山口 元樹		歴史文化学系63
6831006	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	水4	稲葉 穰		歴史文化学系64
6831007	西南アジア史学	特殊講義	2	後期	水2	帯谷 知可		歴史文化学系65
6831009	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	集中	五十嵐 大介		歴史文化学系66
6831011	西南アジア史学	特殊講義	2	後期	月3	磯貝 健一		歴史文化学系67
6842001	西南アジア史学	演習II	4	通年	火2	磯貝 健一		歴史文化学系68
6844001	西南アジア史学	演習II	2	前期	金3	伊藤 隆郎		歴史文化学系69

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
6844002	西南アジア史学	演習Ⅱ	2	後期	金3	伊藤 隆郎		歴史文化学系70
6850001	西南アジア史学	講読	4	通年	金1	今松 泰		歴史文化学系71
6851001	西南アジア史学	講読	2	前期	水2	東長 靖		歴史文化学系72
6851002	西南アジア史学	講読	2	前期	月2	磯貝 健一		歴史文化学系73
6851003	西南アジア史学	講読	2	後期	月2	稲葉 穰		歴史文化学系74
9604001	西南アジア史学	語学	4	通年	木3	西尾 哲夫	大学院共通科目	歴史文化学系75
9608001	西南アジア史学	語学	4	通年	金2	杉山 雅樹	大学院共通科目	歴史文化学系76
9616001	西南アジア史学	語学	4	通年	月4	山口 周子	大学院共通科目	歴史文化学系77
9620001	西南アジア史学	語学	4	通年	金1	森 若葉	大学院共通科目	歴史文化学系78
9633001	西南アジア史学	語学	4	通年	金5	小松 久恵	大学院共通科目	歴史文化学系79
9639001	西南アジア史学	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	歴史文化学系80
9640001	西南アジア史学	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	歴史文化学系81
6931003	西洋史学	特殊講義	2	前期	集中	南雲 泰輔		歴史文化学系82
6931004	西洋史学	特殊講義	2	前期	火2	水谷 智		歴史文化学系83
6931005	西洋史学	特殊講義	2	前期	火4	竹下 哲文		歴史文化学系84
6931006	西洋史学	特殊講義	2	後期	火4	竹下 哲文		歴史文化学系85
6931007	西洋史学	特殊講義	2	前期	月2	伊藤 順二		歴史文化学系86
6931008	西洋史学	特殊講義	2	後期	月2	伊藤 順二		歴史文化学系87
6931009	西洋史学	特殊講義	2	前期	水3	見瀬 悠		歴史文化学系88
6931010	西洋史学	特殊講義	2	後期	木2	関師 宣忠		歴史文化学系89
6931011	西洋史学	特殊講義	2	前期	水4	小関 隆		歴史文化学系90
6931012	西洋史学	特殊講義	2	後期	水4	小関 隆		歴史文化学系91
6931014	西洋史学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史		歴史文化学系92
6931015	西洋史学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史		歴史文化学系93
6931016	西洋史学	特殊講義	2	前期	火5	藤井 崇		歴史文化学系94
6931017	西洋史学	特殊講義	2	後期	火5	藤井 崇		歴史文化学系95
6931018	西洋史学	特殊講義	2	前期	水5	小山 哲		歴史文化学系96
6931019	西洋史学	特殊講義	2	後期	水5	小山 哲		歴史文化学系97
6971001	西洋史学	演習Ⅰ	2	前期	金5	藤井 崇		歴史文化学系98
6971002	西洋史学	演習Ⅰ	2	後期	金5	藤井 崇		歴史文化学系99
6972001	西洋史学	演習Ⅱ	2	前期	金5	佐藤 公美		歴史文化学系100
6972002	西洋史学	演習Ⅱ	2	後期	金5	佐藤 公美		歴史文化学系101
6973001	西洋史学	演習Ⅲ	2	前期	金5	小山 哲		歴史文化学系102
6973002	西洋史学	演習Ⅲ	2	後期	金5	小山 哲		歴史文化学系103
6974001	西洋史学	演習Ⅳ	2	前期	金5	金澤 周作		歴史文化学系104
6974002	西洋史学	演習Ⅳ	2	後期	金5	金澤 周作		歴史文化学系105
6961001	西洋史学	講読	2	前期	火4	小山 哲	ポーランド書講読	歴史文化学系106
M322001	西洋史学	演習	4	通年	金3	小山 哲,金澤 周作,藤井 崇		歴史文化学系107
7031001	考古学	特殊講義	2	前期	水3	吉井 秀夫		歴史文化学系108
7031002	考古学	特殊講義	2	後期	水3	吉井 秀夫		歴史文化学系109
7031003	考古学	特殊講義	2	後期	火3	小方 登		歴史文化学系110
7031004	考古学	特殊講義	2	前期	月2	岡村 秀典		歴史文化学系111
7031005	考古学	特殊講義	2	後期	月2	岡村 秀典		歴史文化学系112
7031006	考古学	特殊講義	2	前期	月4	杉山 淳司		歴史文化学系113
7031009	考古学	特殊講義	2	前期	金3	下垣 仁志		歴史文化学系114
7031010	考古学	特殊講義	2	後期	金3	下垣 仁志		歴史文化学系115
7031011	考古学	特殊講義	2	前期	水2	中久保 辰夫		歴史文化学系116
7031012	考古学	特殊講義	2	後期	月5	吉井 秀夫,富井 眞,下垣 仁志,内記 理		歴史文化学系117
7031013	考古学	特殊講義	2	後期	月4	大賀 克彦		歴史文化学系118
7031014	考古学	特殊講義	2	前期	集中	上峯 篤史		歴史文化学系119
7031015	考古学	特殊講義	2	後期	月3	千葉 豊,伊藤 淳史		歴史文化学系120
7031018	考古学	特殊講義	2	前期	火2	向井 佑介		歴史文化学系121
7031019	考古学	特殊講義	2	後期	火2	向井 佑介		歴史文化学系122
7042001	考古学	演習Ⅱ	4	通年	金4	下垣 仁志		歴史文化学系123
M334001	考古学	演習Ⅳ	4	通年	木1	千葉 豊,吉井 秀夫,下垣 仁志		歴史文化学系124

歴史文化学系1

科目ナンバリング		G-LET42 8M630 PJ38									
授業科目名 <英訳>		歴史学英語論文実習 English for Historians				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		English for Historians/歴史学英語論文実習									
【授業の概要・目的】											
<p>現在、本研究科に籍を置く大学院生たちの多くが、外国語、とくに英語での研究成果の発信を通じて、日本を越えた広い範囲の研究者たちと学術的な交流を深め、学問の発展に寄与したいと、以前にもまして強く望むようになってきている。それゆえ、もし体系的に英語論文の作成手順を学ぶことが出来るのであれば、学術活動の幅は大きく広がるに違いない。この実習では、学会報告用の原稿と留学用の研究計画書の作成からはじめ、最終的に学術雑誌用の投稿論文の書き方を実践的に学んでいく。</p> <p>受講生の要望に応じて、授業中の議論は日本語か英語で行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語での口頭報告を準備し、プレゼンテーションすることができるようになる。 ・ 希望留学先に提出し得る英語での研究計画書を作成することができるようになる。 ・ 英文学術雑誌への投稿に必要な、英文作成と推敲の手順を身に付けることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画については、以下のような内容が想定される：</p> <p>Week 1: Introduction Week 2: The Craft of History Writing Week 3: Identifying Your Research Goals Weeks 4-6: Preparing a Research Proposal with Peer Review Feedback Week 7: Mini-presentation of Research Proposals Weeks 8-11: Working on a Longer Paper Topic Weeks 12-14: Developing Presentations and Peer Review Feedback on Papers Week 15: Final Presentations</p> <p>(フィードバックについては、授業中に指示する。)</p>											
----- 歴史学英語論文実習(2)へ続く -----											

歴史学英語論文実習(2)

[履修要件]

大学院生のみ。ただし、受講者個々人の進度に応じた指導を可能とするために、受講者数の上限は8名とする。

[成績評価の方法・観点]

授業中の議論への参加、提出物、発表にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・受講生には作成した文書の提出や口頭報告が求められるため、そのための準備を授業時間外に行うことが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーを毎週設ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系2

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世仏教の展開と転換									
【授業の概要・目的】											
<p>【授業の概要】 日本中世史研究を歩みを振り返り、研究の現状と課題を確認し、中世という時代全般を概観する。その上で、中世仏教の社会的浸透とその転換について考察する。</p> <p>【授業の目的】 講義の目的は、自説を展開できる論文が書ける能力を受講生が獲得することである。そのために必要な批判力や論理構成力の涵養を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>授業で示された具体的な研究事例を学び、その内容を批判的に検証することで、修士論文執筆に必要な能力が修得できるようになる。つまり、歴史学の基礎をなす実証の方法、先行学説に対する向き合い方、自説を論理的に構成する能力などを獲得することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 日本中世史研究の歩み 第2回 日本中世史研究の歩み 第3回 時期区分論の現状と課題 第4回 中世600年を考える 第5回 中世社会の転換 蒙古襲来の歴史的意義 第6回 僧侶の活動と権門寺院 勧進と聖 第7回 僧侶の活動と権門寺院 修正会・田遊び・勧農 第8回 平泉の寺院と法会 第9回 中世熊野信仰の形成 第10回 金峯山信仰史の研究 第11回 蒙古襲来と神仏 第12回 蒙古襲来と神仏 第13回 権門体制の弛緩 六勝寺の解体と本末関係の衰退 第14回 権門体制の弛緩 祈祷と寺社 第15回 中世仏教の転換</p> <p>自身の研究の進捗状況により、上記の内容を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末のレポート(50%)と授業のさいに実施予定の小レポート(50%)。 レポートにおいて、自らの見解を論理的あるいは実証的に論じているのかを評価基</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

準とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

上島 享 『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4
その他については、適宜、授業で指示をする。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・事前に配布する史資料を読んだ上で、授業にのぞむこと。
- ・授業終了後は、授業内容を批判的に検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

- ・質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系3

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世武家社会研究									
【授業の概要・目的】											
<p>近年の日本近世史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。</p> <p>担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、近世初頭の武家の世代差という観点を念頭に、蜂須賀正勝・家政関係文書の分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を向上させ、発展的に応用する視角と方法論を獲得する。期末には、自己の課題にもとづいて様々な史料をとりあげて読み込み、レポートを作成できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世国家形成過程をどう捉えるか 【2週】 2. 近世大名の文書【2週】 3. 蜂須賀正勝関係文書の分析【4週】 4. 蜂須賀家政関係文書の分析【6週】 5. まとめと総括【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートで評価する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、関連する学術文献を各自で収集して読む。また、自身の課題を設定して史料を収集・分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系4

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本社会史の研究 豚を中心に									
【授業の概要・目的】											
近代日本社会の形成・展開の様相を論じる。中心課題となるのは、主として明治期の「豚」である。とはいえ、豚をめぐる歴史トリビア・こぼれ話を羅列的に開陳するものでは決してない。明治初年の養豚結社やその思想、受容した人々の動きを解き明かすとともに、それを起点に政治・文化・環境・軍事・貧困・宗教などさまざまな論点につらなる近代日本の見方を、歴史学の立場から講じる。											
【到達目標】											
近代日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料（未刊行の手稿史料も含む）を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の能力をより高めることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回はイントロダクション、最終回（15回目）は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各1～2回講じる予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・幕末までの豚と社会 ・養豚結社・協救社の成立 ・『協救社衍義草稿』の国益論と「文明開化」 ・ある養豚事業の行方 京都・両替商荒木家の場合 ・ある養豚事業の行方 東京・米屋田中家の場合 ・近代学知のなかの豚 畜産学と養豚手引書 ・豚をめぐる国際関係史 「豚コレラ」と豚（肉）貿易 ・養豚奨励法の成立とその政治史的意義 ・戦争と豚肉 ・豚肉食の定着と養豚の「記憶」 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート(70%)と授業中に実施予定の小レポート(30%)で総合的に判断する。レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学的手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるようがとってもらえればと思う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系5

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 笹川 尚紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代氏族の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>ヤマト王権の形成をめぐることは、古代氏族の役割を軽視することができない。なかでも、ヤマト王権の最高執政官たる大臣と大連を輩出した蘇我臣と物部連の動向を跡づけることは、その点を明らかにするうえで、すこぶる重要であるといえる。よって、本講義においては、両氏にかかわる事柄の分析を中心にして、ヤマト王権の発展過程について、私見を開陳していく。</p> <p>また、そういう課題を検討するに際しては、『古事記』と『日本書紀』を用いる必要が存する。けれども、それらの内容に対しては、事実に基づくものなのか、史料批判が不可欠になるといえる。このような点をはっきりさせるために、両書の成立や性格などについても、とかく考察を加えていく所存である。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基本的事項と研究方法を深く理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『古事記』と『日本書紀』(1)</p> <p>第3回 『古事記』と『日本書紀』(2)</p> <p>第4回 『日本書紀』の伝来と諸写本</p> <p>第5回 天皇の実在性</p> <p>第6回 氏と姓</p> <p>第7回 饒速日命・伊香色雄</p> <p>第8回 建内宿禰</p> <p>第9回 物部連目</p> <p>第10回 物部連麿鹿火</p> <p>第11回 蘇我臣の発祥地</p> <p>第12回 蘇我臣稻目</p> <p>第13回 物部連守屋</p> <p>第14回 蘇我臣馬子</p> <p>第15回 蘇我臣蝦夷・入鹿</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系6

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 東大寺別当の成立									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、東大寺別当の成立に焦点をあてながら、宮廷社会の変質と寺院組織の変容との関係性について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、東大寺別当の成立に焦点をあてながら、宮廷社会の変質と寺院組織の変容との関係性について検討する。まずは平安時代前期に登場する寺院別当制を概観し、寺院組織の変容に関する全体像を把握する。次いで、東大寺別当が成立する以前の東大寺の組織運営を整理し、それを踏まえて東大寺別当の成立時期とその意義について考察する。最後に、平安時代の東大寺が果たした役割を、宮廷社会の様相と関連づけながら検討する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 寺院別当制の成立意義（第2回～第4回）											
2 奈良時代後半期における東大寺（第5回～第7回）											
3 造東大寺司の停廃と東大寺別当の成立（第8回～第10回）											
4 平安時代の東大寺と宮廷社会（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系7

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 四天王寺縁起にみる聖徳太子信仰									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、四天王寺縁起の記述内容に焦点をあてながら、宮廷社会における聖徳太子信仰の展開について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、四天王寺縁起の記述内容に焦点をあてながら、宮廷社会における聖徳太子信仰の展開について検討する。まずは四天王寺縁起の出現と伝来に関する先行研究を概観し、問題意識を明確にする。次いで、四天王寺縁起の成立時期と構成を考察し、特に資財帳部分に関して、その記述内容を検討する。最後に、聖徳太子信仰の展開と宮廷社会との関係性を、四天王寺や法隆寺など聖徳太子関連寺院の動向から考える。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 四天王寺縁起の出現と伝来（第2回～第4回）											
2 四天王寺縁起の成立時期と構成（第5回～第7回）											
3 資財帳としての四天王寺縁起（第8回～第10回）											
4 聖徳太子信仰の展開と宮廷社会（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系8

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世の荘園と村落									
【授業の概要・目的】											
今期は、近江国の荘園と村落を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本中世の荘園と村落に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。											
第1回 荘園研究と現況調査											
第2回 荘園類型と立荘論											
第3回 近江国木津荘の引田帳と検注帳											
第4回 近江国木津荘域の条里プラン											
第5回 応永年間の木津荘と地殻変動											
第6回 古代の港木津と北陸道											
第7回 「記憶」の「記録」を作る(1)											
第8回 「記憶」の「記録」を作る(2)											
第9回 景観復元の試み(1)											
第10回 景観復元の試み(2)											
第11回 景観復元の試み(3)											
第12回 景観復元の試み(4)											
第13回 比叡荘・高島荘・木津荘											
第14回 近江国高島郡の荘園公領											
第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系9

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鎌倉幕府政治史研究の可能性									
【授業の概要・目的】											
今期は、鎌倉幕府政治史を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
鎌倉幕府の政治史に関する認識を深めるとともに、歴史の転換期としての当該期の意義とその分析方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。											
第1回 中世都市鎌倉の黎明											
第2回 『吾妻鏡』をいかに扱うか											
第3回 「古文書」をいかに扱うか											
第4回 「系図」をいかに扱うか											
第5回 「得宗専制論」の明と暗											
第6回 「公権委譲論」の真と偽											
第7回 守護研究の現在(1)											
第8回 守護研究の現在(2)											
第9回 守護研究の現在(3)											
第10回 守護研究の現在(4)											
第11回 室町幕府研究への影響											
第12回 鎌倉幕府末期政治史研究(1)											
第13回 鎌倉幕府末期政治史研究(2)											
第14回 鎌倉幕府末期政治史研究(3)											
第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

前もってプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系10

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		17世紀近世社会論									
【授業の概要・目的】											
17世紀とはどのような社会であったのか。石見銀山を支配するために配置された幕領を対象に、中世社会が変容しながら近世社会が形成されていく過程について、幕領支配の変遷を中心に考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。											
【到達目標】											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
1, 石見銀山と銀山附幕領の成立(2回) 2, 奉行による支配(3回) 3, 代官による支配(3回) 4, 地役人(3回) 5, 山野河海を支配する(3回) 6, まとめと総括(1回) * なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
【履修要件】											
一定の漢文読解力を必要とする。											
【成績評価の方法・観点】											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系11

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鉱山社会論									
【授業の概要・目的】											
日本近世において銀銅は日本の主要な輸出品であり、全国各地で銀山・銅山が開発された。銀山・銅山には採鉱・精錬を担う多くの人々が暮らしていたが、史料の制約から鉱山社会の実態はよくわかっていない。そこで本講義では、石見銀山附幕領内に所在した笹ヶ谷銅山を事例に、鉱山ではどのような社会が形成されていたのかについて講義し、日本の近世社会の諸相について考えていく。授業は事前に配布した史料を読み込みながら進めていく。											
【到達目標】											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
1 , 日本近世の鉱山(2回) 2 , 石見国笹ヶ谷銅山の開発(2回) 3 , 銅山師身分の制立(2回) 4 , 山内労働者(4回) 5 , 山内の改革(4回) 6 , まとめ(1回) * なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業中指示する文献の精読、史料解釈											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系12

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 教授 岩崎 奈緒子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世後期の対外認識 10									
[授業の概要・目的]											
司馬江漢の著述を素材として、江漢の天文学と世界認識の特質を考究する。											
[到達目標]											
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
1．研究史と本講義の視座【2週】											
2．司馬江漢について【2週】 「独笑妄言」・「春波楼筆記」から											
3．司馬江漢の天文学 「刻白爾天文図解」【2週】 「地転儀略図解」「地転儀示蒙」【3週】											
4．司馬江漢の地理学 輿地略説【2週】 地球全図略説【3週】											
5．フィードバック【1週】											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系13

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		物語と文化財、そして美術									
【授業の概要・目的】											
<p>近世から近代へと移行する中で、神話や物語は再編され、名所・旧跡は文化財として新たに価値づけられた。そのなかでも神武創業や南朝正統論などは典型であるが、その他、前近代に源平の戦いの表象にあった宇治には20世紀に国風文化の貴族や「源氏物語」の女性のイメージが付与された。近代天皇制が形成される中で、天皇陵や御物など「万世一系」を視覚化し、国民道徳をあらわす史蹟が生み出された。南画家の富岡鉄斎は明治維新から大正期まで文人として生きるが、彼の絵画は天皇崇敬の国民道徳を視覚化するものであった。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「物語と文化財、そして美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語と文化財 ・ 「歴史まちづくり法」と宇治 ・ 「歴史まちづくり法」と向日町 ・ 世界遺産と百舌鳥・古市古墳群 ・ 大山古墳と「仁徳天皇陵古墳」の名称 ・ 神武天皇陵の近現代 ・ 名教的文化財 ・ 南朝史蹟 ・ 赤穂浪士と旧跡 ・ 天皇陵の明治維新 ・ 「万世一系の神話」と天皇陵 ・ 「万世一系の神話」と御物 ・ 富岡鉄斎と明治維新 ・ 鉄斎が描いた南朝史蹟 ・ 鉄斎が描いた天皇行幸 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

高木博志ほか『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

高木博志『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

[授業外学修（予習・復習）等]

京都において、「物語と文化財、そして美術」に関わる巡見を希望者とする。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系14

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		京都らしさと文化、社会を描く美術									
【授業の概要・目的】											
<p>日露戦後の20世紀には社会問題が浮上し、庶民の生活や労働を描こうとする画家たちが現れる。京都では第二高等女学校で教えながら貧困の中、市井の庶民を描いた千種掃雲、その弟子で花街の雇仲居や遊女を題材とした梶原緋佐子、奈落の吉原遊女に向き合った秦テルヲなど、京都画壇の周縁の新しい動向を取り上げる。同じように京都の花街・遊廓の買春の現実に向き合った竹久夢二・野長瀬晩花も考える。また大正期の民芸運動は、明治以来の古社寺保存法などで政府が困り込んだファイン・アートからはこぼれ落ちたものに光をあてた。柳宗悦・河井寛次郎・寿岳文章らの営みを紹介したい。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「京都らしさと文化、社会を描く美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日露戦後の社会 ・ 第一次世界大戦後の大衆社会 ・ 社会を描く ・ 京都と遊廓・花街 ・ 「千種掃雲日記」を読む ・ 梶原緋佐子が描く社会 ・ 秦テルヲと花街・遊廓 ・ 国画創作協会の若き才能 ・ 鴨東カルチェラタン ・ 京都と舞妓表象 ・ 大正期の祇園もの、南蛮憧憬 ・ 柳宗悦と民芸運動 ・ 寿岳文章と『紙漉村旅日記』 ・ 芹沢銈介と染織工芸 ・ 河井寛次郎 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成につき指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

[授業外学修（予習・復習）等]

「京都らしさと文化、社会を描く美術」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系15

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都大学百二十五年史」を読む 1									
【授業の概要・目的】											
1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、創立から敗戦までを対象とする。											
【到達目標】											
近代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本近代史史料を読み込む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 京都帝国大学の創立 3 大学像の模索 4 「大学自治」をめぐる 5 大正期の高等教育改革と諸制度の整備 6 学生の諸相 7 社会運動の展開 8 滝川事件(1) 9 滝川事件(2) 10 戦時下の諸動向(1) 11 戦時下の諸動向(2) 12 兵役と学生 13 戦争末期の状況 14 敗戦 15 まとめ(フィードバック) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系16

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史研究事始									
【授業の概要・目的】											
<p>概要：講師の専門（近現代日本の社会運動史、社会思想史、史学史）に基づく、歴史研究の導入教育。</p> <p>目的：講師が歴史研究のプロセスを受講者に開示する。歴史研究における問題意識・目的・方法などを受講者が批判的に検討することで、自身の歴史研究や社会認識の糧にしてもらうことが本講義の目的である。なお、本講義は必ずしも他分野の歴史研究の参考となるわけではないことをご理解いただきたい。</p>											
【到達目標】											
歴史研究の意義を理解し、その目的・方法を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テーマ設定、先行研究の整理と分析 3 施設見学と資料調査1 4 施設見学と資料調査2 5 施設見学と資料調査3 6 施設見学と資料調査4 7 その他の資料調査（古書、聴き取り） 8 収集資料の整理・保存と研究活用 9 資料の読解1 10 資料の読解2 11 資料の読解3 12 歴史を叙述する1 13 歴史を叙述する2 14 歴史を叙述する3 15 まとめ <p>なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>											
【履修要件】											
必須ではないが、歴史研究に従事する意志があればありがたい。受講者の人数によっては別途選抜につき検討する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート(40点)と期末レポート(40点)、平常点(20点)等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系17

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 教授 市 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアのなかの日本古代宮都									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史の史料は限られているが、発掘調査を通じて、新たな知見が次々と明らかにされつつある。本講義では、既存の文献史料に加え、新たな考古資料も積極的に活用しながら、飛鳥時代（6世紀末～8世紀初頭）を中心に宮都の展開過程を跡づけ、日本古代国家の形成過程に迫ってみたい。その際、日本古代史を一国史にとどめるのではなく、東アジア史の文脈のなかに位置づけるように注意したい。</p>											
【到達目標】											
<p>資料の取り扱い方法を習得する。日本古代史の主要な論点を理解する。東アジア史の文脈で、日本古代史像をイメージできるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進める予定である。ただし、受講者の理解状況に応じて詳しく説明したり、新たな知見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容などについては柔軟に考えることにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、イントロダクション 古代宮都の概観 2、遣隋使の派遣と小墾田宮 3、飛鳥岡本宮から百濟宮へ 4、7世紀中葉の東アジア情勢と百濟大寺 5、難波諸宮の展開 6、大化改新と難波宮 7、白村江の戦い前後の王宮 8、飛鳥浄御原宮と関連施設 9、複都構想と東アジアの都城 10、藤原京の誕生 11、大宝律令の施行と藤原京 12、平城京遷都の歴史的意義 13、日唐王宮の空間構成 14、門からみた日本古代王宮の特質・展開 15、授業全体のまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）で総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配布して授業をおこなう。

[参考書等]

（参考書）

川尻秋生他 『シリーズ古代史をひらく 古代の都』（岩波書店，2019年）ISBN:9784000284967
市大樹 『飛鳥の木簡』（中央公論新社，2012年）ISBN:9784121021687C1221
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で言及した参考文献を図書館などで見てみる。飛鳥などの遺跡を訪れてみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系18

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀大学 教育学部 教授 宇佐見 隆之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		在地に残された史料からみる中世の社会									
【授業の概要・目的】											
<p>日本史学の記述が史資料によって形作られていることへの理解を目指す。 対面授業を行う予定であるが、感染症の状況によってオンライン講義になる可能性があるので留意すること。</p> <p>日本に古くから残されている古文書や古記録。その多くは正倉院文書をはじめとして寺社や公家などに残されたものである。しかし中世に入ると、村や町の在地に残される史料が現れる。それらには、寺社文書、公家文書にはない民衆の生活が記されている。本講義ではこのような在地の史料からわかる社会を描き出すことをめざす。中世社会の根底にある荘園を知るためにも在地の史料を知る必要が生じる。またこれらの史料は次の時代近世へのつながりを知ることが出来る題材ともなる。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史の方法論や史料解釈の方法を学び、応用することができる。 2 文献史料を用いた考え方を学び、身につけることができる。 3 考察したことを適切にまとめて、論理的に表現することができる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1～2、ガイダンス：日本史学と古文書 文献史の方法と史料 3～4、荘園制と在地文書 秦文書と若狭国大田文 5～7 近江国に残る在地文書 大嶋奥津嶋神社文書、菅浦文書 8～9 在地文書と産業 今堀日吉神社文書と商業、木地師文書 10～12 中世経済史は成り立つのか 荘園制と商工業、技術、 13～14 中世から近世へ 史料の残り方と連続性、敦賀と小浜 15 レポートとフィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートを想定している（8割程度）が、受講人数によっては試験になる場合がある（2回目頃には確定する）。残り2割は通常時の小レポートなどによる。

[教科書]

使用しない
プリント配布予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
必要な文献は授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

必要な先行研究等は授業で紹介するので、予習・復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系19

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学 史料編纂所 准教授 藤原 重雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世絵画史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>前近代日本史研究の基礎に、文書・記録等の文献史料の読解があることは疑いない。一方、過去の人々の営み全体を対象とする歴史学にとって、文献の精緻な読み解きそれ自体は方法であり目的とはいえ、多様な素材を対象に取り込んで、豊かな歴史の諸相を照らし出すこともまた課題である。</p> <p>本講義では、主に12～16世紀の絵画作品から異なるジャンルの事例を取り上げ、絵画としての特性を踏まえた上で、歴史史料としてどのような分析が可能なのか、これまでの研究の蓄積を紹介しながら、新しい課題にも取り組みたい。日本中世史に関する専門的な講義であるが、視覚的な情報の領域・比重が高まる現代社会においても共通する論点のあることを意識する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本中世史研究における史料論の現状を理解する。 ・史料批判を基礎とした歴史学の方法について理解する。 ・視覚的イメージを批判的に捉える態度を習得する。 ・図書館・博物館・美術館およびデジタル的な学術環境について、現状を把握し将来像を展望する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のジャンルから、実際に展示で作品を見る機会がある、現地を各自で見学することが可能な事例などを優先して扱う予定。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2・3回 絵巻物と『常民生活絵引』 第4・5回 肖像画 第6・7回 宮曼荼羅・荘園絵図 第8・9回 掛幅縁起絵と説話・地理 第10・11回 参詣曼荼羅 第12・13回 洛中洛外図屏風 第14回 好古図譜『聆涛閣集古帖』とデジタル公開 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

・レポート。到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

教科書は使用しない。講義にあたってはプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

黒田日出男 『増補 姿としぐさの中世史』 (平凡社ライブラリー、2002年) ISBN:4582764452 (「画像の歴史学」を収録)

石上英一編 『日本の時代史 30』 (吉川弘文館、2004年) ISBN:4642008306 (藤原「中世絵画と歴史学」を収録)

藤原重雄 『史料としての猫絵』 (山川出版社、2014年) ISBN:9784634546912

ピーター・バーク (諸川春樹訳) 『時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究』 (中央公論美術出版、2007年) ISBN:9784805505489

吉田ゆり子・八尾師誠・千葉敏之編 『画像史料論 世界史の読み方』 (東京外国語大学出版会、2014年) ISBN:9784904575321

個別には講義にて紹介する。

(関連URL)

<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fujiwara/lecture.html>(過去の講義の参考文献などを掲載しています。)

[授業外学修(予習・復習)等]

・短期間の集中講義ですので、参考書の上2件に事前に目を通して頂くと、理解がしやすいかと思います。

・キャンパスメンバーズの権利を行使して、京都国立博物館・奈良国立博物館で平常展(絵画は定期的に展示替えをしており、観覧無料です)を見る習慣を身につけて下さい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系20

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都先端科学大学 人文学部 教授 鍛治 宏介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の京都									
【授業の概要・目的】											
江戸時代は文字通り、「江戸」が政治、経済、文化の中心として栄えた時代ですが、京都は、天皇の住む都、各藩が呉服を購入するため藩邸をおいた産業都市、寺の本山が集まる宗教都市、学者たちが集まる学術都市、芸術活動や出版業が盛んな文化都市、観光客が多く集う観光都市として栄えていました。この授業では、江戸時代における京都の歴史を、丸竹夷の通り名歌、水戸黄門、生類憐れみ令、天皇陵、遊所祇園、さまざまなトピックをとりあげながらみていきます。											
【到達目標】											
講義を通じて、江戸時代の特色を把握すること、多角的に収集した史料を読解して時代を読み解いていく歴史学の手法を理解すること、また毎回の講義で紹介する史料のなかに広がる豊かな世界を知ることが講義の主たる目標とします。またインターネットや図書館や博物館で、史料を探す手法も身につけてください。専攻とする分野が異なる人、興味のあるテーマが異なる人も、本講義を自らの研究の刺激として、自らの研究に取り組んでください。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の内容について講義します。ただし講義の進捗状況等により、順序や講義回数を変更することがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス この授業の概要とレポートについて 2 京都通り名歌の歴史 3 生類憐れみの令と京都の捨て子 4 水戸黄門と京都のお公家さん 5 重要文化財「大日本史編纂記録」を分解する 6 江戸時代の武士と文化都市京都 7 うんちの歴史 8 朝廷官位と年齢詐称 9 天皇陵の管理と修復 10 蚕の社と西陣 11 京都で暮らす女性たち 12 祇園遊所と一生不通養子娘 13 祇園遊所と幕府の政策 14 祇園遊所で遊ぶ人々 15 幕末京都と新選組 											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の発言・コメント紙回答30% レポート70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

学期末のレポートが、一定以上の水準のものになるように、各自、興味をもった内容について、図書館やネットで、学術書や論文、史料を読んで、準備をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の講義冒頭で前回の授業にだされたコメント用紙について20分ほどかけて回答を行う。面白い質問がでた場合、講義予定を変更して、その回答で一回分を費やす場合もある。毎回、振り返り20分、講義1時間、コメント記入10分を目安として授業を行う。なお質問のある方はこちらにお願いします(kaji.kosuke@kuas.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系21

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪経済大学 経済学部 准教授 内山 一幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		武士の近代									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、担当者がこれまで執筆した論文を素材に、武士たちが近代日本においてどのような存在であったのかを考えていく。講義において毎回論文1篇ずつ解説を行う。論文執筆の際に、着眼点はどこにあったのか、具体的にどのような作業を行ったのか、論文発表時点での学界の反応はどうであったのか、単著にまとめる際にどのような修正を行ったのか、現在、その論文を自分自身がどう評価しているか、といった内容を話す。</p>											
【到達目標】											
<p>上記の講義内容を通じて、「武士の近代」というテーマを理解することに加えて、論文を書くための能力も養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 講義担当者の研究の概要 2 「旧藩主の家政と家令・家扶」(『日本歴史』699号、2006年) 3 「旧藩主家における意思決定と家憲」(『九州史学』146号、2006年) 4 「明治前期における旧藩主家と地域社会」(『日本歴史』723号、2008年) 5 「明治前期における大名華族の意識と行動」(『日本史研究』576号、2010年) 6 「明治十年代における旧藩主家と土族銀行」(『史学雑誌』124-1、2015年) 7 『明治期の旧藩主家と社会』(吉川弘文館、2015年)第2部第1章 8 同上、第3部第1章 9 同上、第3部第3章 10 「東京の中の旧藩」(『年報近現代史研究』8号、2016年) 11～15については、上記の講義での反応を見ながら、さらに論文の解説を行うのか、近年の研究動向の説明をするか判断する。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点 40%</p> <p>期末レポート 60%</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
論文のコピーおよびレジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
内山 一幸 『明治期の旧藩主家と社会』(吉川弘文館、2015年)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に論文のコピーないしPDFファイルを準備するが、講義で内容の紹介も行うため、事前に読まなくても授業を理解することもできなくはない。しかし、精読の上、講義に臨んだ方が理解度は高まると思われる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系22

科目ナンバリング		G-LET23 7M292 SJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		貞観格の研究									
【授業の概要・目的】											
『類聚三代格』に収められた貞観格を年代順に精読し、奈良平安時代史への理解を深めるとともに、古代史研究法について考える。 貞観格は貞観十一年(869)に撰進された法令集で、弘仁十一年(820)から貞観十年までの詔勅・論奏・太政官符を官司別に編成し、これに雑格・臨時格を付して全十二巻とする。律令体制の変容を考える上で重要な史料であり、現在は大部分が『類聚三代格』に内容別に分類されて伝わっている。本演習では、貞観格の法令を年代順に精読していく。											
【到達目標】											
日本古代史の基本史料に関する高い読解力を得る。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション 貞観格の概要を説明し、各出席者の担当部分を決定する。 第2回～第29回：『類聚三代格』所収貞観格法令の精読 『類聚三代格』所収の貞観格法令を精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね毎週一通を基本とする。担当者は研究史を把握し、関係史料を網羅した上で、適切な解釈と評価をなすことが求められる。他の出席者も必ず予習・発言しなければならず、沈黙に終始する者は参加資格を失う。 第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価を行なう。報告(50点)と討論参加状況(50点)を勘案する。											
【教科書】											
『新訂増補国史大系 類聚三代格』（吉川弘文館）（必ず購入すること）											
【参考書等】											
（参考書） 特になし											
----- 日本史学(演習)(2)へ続く -----											

日本史学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

次回読み進める法令を読んでおく。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系23

科目ナンバリング		G-LET23 7M292 SJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本中世寺社史料の研究									
[授業の概要・目的]											
日本中世の寺社史料を精読し、史料読解力を習得するとともに、中世史研究の方法を学び、政治・社会経済・宗教・文化など多角的な視角から日本中世社会の特質を考える。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・中世史料を正確に読解する能力を習得する。 ・具体的な史料から議論・論理を構築する能力を獲得する。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2～29回 中世寺社史料の精読 出席者はそれぞれの担当箇所を翻刻し、内容を精査したうえで、発表し、それにもとづき全員で議論をする。</p> <p>第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
・事前に史料を読み、自らの解釈をもって、授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系24

科目ナンバリング		G-LET23 7M292 SJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世の武家文書を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>近世の武家文書を輪読する。活字史料を用いる場合もあるが、概ねくずし字で書かれた原文書を読む予定である。当時の政治・社会状況をふまえ、近世武家文書の史料的性格を把握しつつ、読解に必要な知識を取捨選択し、前後関係や史料の文章構造を把握する能力が問われることになる。そうした作業を通して、武家文書に限らない近世の諸史料を正確に読み解いて研究に用いる視角や方法論を学ぶことになる。研究の基礎であり根幹であるところの史料読解能力に磨きをかけつつ、近世国家・社会がいかなる特質を有するのかを見極めるための方法論を獲得することを目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>近世史料を正確に読むだけでなく、関連史料を探す能力、問題を見いだして展開していく能力を獲得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回目 導入 扱った史料の概要、参考文献の紹介も含めて報告準備方法について説明し、報告箇所の分担を決める。</p> <p>第2回目～29回目 史料の精読に基づく個別報告 各自で担当箇所を解説・分析し、報告を行い、参加者全員で討議する。</p> <p>第30回目 まとめ 成果をまとめ、残された課題や疑問点について確認する。</p>											
[履修要件]											
<p>近世の古文書のくずし字を読解する能力を有すること。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>担当部分の個人報告を中心に総合的に評価する。</p>											
[教科書]											
<p>史料は、授業時に配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>授業中に指示する他、自身で判断して為すべき事を遂行すること。</p> <p>(その他(オフィスアワー等))</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

歴史文化学系25

科目ナンバリング		G-LET23 7M292 SJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穣			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本近代史への接近と展開									
[授業の概要・目的]											
<p>明治期の政治・社会に関する文書群を精読し、その内容の正確な把握とそこから析出される論点を深める研究発表、および近代の書簡史料（未刊行）の翻刻作業とを行う。この二つの取り組みを通じて、史料の深い読解を起点として近代日本の形成と展開の諸相を考察・討議すること、単なる言説分析や制度形成のトレースにとどまらず、探索した関連史料とあわせて論点を深く掘り下げていくこと、その基礎となる手稿史料の解読能力を高めていくこと、これらを主たる目的とする。今年度は引き続き明治10年代から20年代にかけて京都府知事を務めた北垣国道の日記「塵海」を読む。ただし出席者の状況を勘案し、別の種類の史料や研究文献の輪読、あるいは個々の研究発表に力点をおくこともありうる。</p>											
[到達目標]											
史料に基づいた実証的な分析を通じて、近代日本の諸側面を歴史的に深く考察するとともに、明晰な研究発表および討議ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回はガイダンスと担当の決定、第2回～第30回は参加者による報告。報告者は単に担当史料の内容やその背景を説明するにとどまらず、論点に関わる先行研究を十分に把握、紹介したうえで、史料の精読にもとづく研究発表を行う。報告者および出席者の十分な予習と積極的な発言、議論により進めてゆく。担当教員は、あくまで補助的な役割を担うにすぎない。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（毎回の研究報告と議論への積極的参加、70%）、および期末レポート（30%）。											
[教科書]											
塵海研究会編『北垣国道日記「塵海」』（思文閣出版、2010年）（今年度は1895（明治28）年以降の分を精読していく予定。）											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する。ただし報告予定者は、自身の報告の一週間前に必ず適切な参考文献（予習用の必読文献）を指定すること。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
受講生が各自独力で考え実践する。大学院生なら当然であろう。											
（その他（オフィスアワー等））											
<p>討議の場では、史料に基づいた丁寧な問い、そして素朴でも根源的な問いを積極的に発する者こそ、尊重される。十分な予習をもとに、拙くとも多くのクエスチョンを携えて出席すること。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

歴史文化学系26

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		秦史研究序説									
【授業の概要・目的】											
<p>1970年代以降の秦簡の出土により、前3世紀後半については、従来とは比較を絶する緻密な秦史の実態が解明されつつある。対するに、前3世紀半ば以前の秦史に関する認識は、『史記』になお最も大きく依存している。本講義では、戦国後期～前漢前期における秦史認識と比較することで、『史記』の秦史認識の特徴ないし独自性を確認する。</p>											
【到達目標】											
中国古代史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目を逐次論ずる。</p> <p>第1回 序論 第2回 秦史記述の疎密 第3回～第4回 秦の起源 第5回 秦の建国 第6回 穆公 第7回 秦＝戎狄説 第8回 献公 第9回～第10回 孝公～莊襄王 第11回～第14回 統一秦 第15回 結論</p> <p>* フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系27

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		孟子とその時代									
[授業の概要・目的]											
孟子の経歴については、武内義雄・錢穆の先行研究があるが、年代学・歴史文献学的に問題があり、とりわけ先秦時代の歴史的事実および『孟子』の編纂上の特徴に対する理解が決定的に不十分であった。このような批判的視点に立ちつつ、戦国中期までの歴史的推移を概観し、『孟子』を解析することによって、中国専制国家形成過程としての先秦史に孟子を位置づける。											
[到達目標]											
先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回～第5回 春秋中期～戦国中期の歴史的推移 第6回～第7回 孟子の歴史認識 第8回 『孟子』の定量的分析 第9回～第10回 『孟子』各篇の章次 第11回～第14回 孟子の経歴 第15回 結論											
*フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世世界におけるカトリック教会の位相									
【授業の概要・目的】											
<p>1 7世紀のフランドルのイエズス会士、Cornelius HazartのKerckelycke historie van de gheheele werelt 『世界教会史』第一巻を読むことで、近世世界におけるカトリック教会の位相を探る。全四巻からなる本書のうち、第一巻にはヨーロッパ外の各地域におけるカトリックの布教状況が取り上げられる。著者はプロテスタントに対して polemical な著作を多く残しており、本書執筆の意図もそこにあるが、ここではそうした宗派的文脈よりも、イエズス会そしてカトリック教会の世界布教の構図を浮かび上がらせる材料として本書を読み解きたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , イエズス会のグローバルな活動を通じて近世世界の輪郭が把握できる 2 , 各地間の布教状況の差異から、比較史的考察が可能になる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 , 著者について 2 , 日本(1) オランダ人の記録 3 , 日本(2) 布教 4 , 日本(3) 迫害 5 , 中国(1) 開教 6 , 中国(2) 発展 7 , ムガル 8 , 南インド 9 , ペルー 10 , メキシコ 11 , ブラジル 12 , フロリダ、カナダ 13 , パラグアイ、マラニャン 14 , アダム・シャルル 15 , フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系29

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世の世界におけるオランダの活動									
【授業の概要・目的】											
<p>オランダの両インド会社や個人の活動を通じて、17世紀の世界を俯瞰する。 両インド会社のうち、東インド会社のほうが注目されがちだが（日本では特にそうである）、旧会社は半世紀しか存続しなかった西インド会社の活動にも近年注目が集まりつつある。 本講義では、時系列に沿って、大西洋世界も含めた世界各地におけるオランダ人あるいは会社の傘下で活動した人々の活動を追跡し、とくに彼らの世界認識を探ることで、近世世界の歴史的特質の一端を捉えることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , 17世紀のオランダの世界史的意義を把握できる 2 , 蘭学の源流について知ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 , イントロダクション 2 , 蘭学の世界 3 , 1612年 イスタンブル 4 , 1621年 アグラ 5 , 1623年 イスファハーン 6 , 1630年代 平戸 7 , 1634年 アユタヤ 8 , 1635年 キュラソー 9 , 1637年 レシフェ 10、1646年 ニュー・アムステルダム 11、1654年 アンボン島 12 , 1656年 北京 13 , 1664年 モスクワ 14 , 1668年 ダッペル 『アフリカ』 15 , フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系30

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		帝国日本のスポーツ									
【授業の概要・目的】											
<p>私はかつて『帝国日本とスポーツ』（2012年）を書いて、内地中心の日本スポーツ史を批判した。その後、朝鮮や台湾のスポーツに関する良質の研究が出てきたものの、それらはなお植民地と宗主国の二者関係に視野が限られ、帝国全体を見渡すものとはなっていない。帝国全体を描くうえでネックとなっているのが満洲のスポーツ史であり、その研究はいま着実に進みつつある。その具体的な成果は後期の授業で紹介することにし、前期は日本内地、朝鮮、台湾、満洲などでスポーツが発展し、帝国に統合される過程、スポーツを通じた「文明化の使命」が日中戦争期の占領統治へと引き継がれていく過程、そしてできれば戦後東アジアにもたらした遺産（レガシー）を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>スポーツというテーマはまだ歴史学ではまっとうな扱いを受けていないが、東京オリンピックや北京冬季オリンピックの状況が示すように、近現代社会を考えるうえで重要なテーマとなるはずである。そんなスポーツ史の魅力と可能性を伝えたい。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>スポーツというテーマはまだ歴史学ではまっとうな扱いを受けていないが、東京オリンピックや北京冬季オリンピックの状況が示すように、近現代社会を考えるうえで重要なテーマとなるはずである。そんなスポーツ史の魅力と可能性を伝えたい。</p> <p>下記の内容について論じる。準備の都合や時々状況により内容は多少出入りすることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．日本（内地）のスポーツ（4週） 2．朝鮮のスポーツ（2週） 3．台湾のスポーツ（2週） 4．満洲のスポーツ（2週） 5．帝国日本のスポーツ（3週） 6．帝国日本の遺産（2週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業のコメントと小レポート（60点）、学期末レポート（40点）											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』 (塙書房) ISBN:9784827312539

高嶋航 『スポーツからみる東アジア史』 (岩波書店, 2021) ISBN:978-4-00-431906-1

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系31

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		満洲とスポーツ									
【授業の概要・目的】											
<p>満洲（現在の中国東北地区）は、これまでスポーツ研究では看過されてきた地域である。しかし、満洲は日本を考えるうえでも、中国を考えるうえでも、さらには東アジアを考えるうえでも重要な地域である。なぜならそこでは、日本（朝鮮を含む）と中国が併存し、対立し、混交するなかでスポーツが発達してきたからである。</p> <p>本講義では、日本、中国、朝鮮の状況を踏まえつつ、戦前および戦時中の満洲におけるスポーツの概要と、個別の興味深い問題について論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>東アジアでは、北京（2008）、平昌（2018）、東京（2020）、北京（2022）とオリンピックが立て続けに開かれている。スポーツの世界で東アジアのプレゼンスが高まるなかで、東アジアのスポーツの歴史を理解することは、スポーツを通じてよりよい東アジアを築き上げる基礎となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 満洲におけるスポーツの始まり 2. 満鉄とスポーツ 3. 満洲と野球 4. 満洲と甲子園 5. インドアベースボールと東アジア 6. 大連YMCAと「文明化の使命」 7. 満洲スポーツの父、岡部平太 8. 満洲とスケート 9. 満洲の軍隊とスポーツ 10. 満洲の中国人スポーツ 11. 満洲における日中スポーツ交流 12. 満洲と明治神宮大会 13. 満洲国とスポーツ 14. 満洲国のナショナルチーム 15. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業のコメントと小テスト(60点)、期末レポート(40点)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』(塙書房,2012) ISBN:4827312532

高嶋航 『国家とスポーツ:岡部平太』(KADOKAWA,2020) ISBN:4044004943

高嶋航、金誠 『帝国日本と越境するアスリート』(塙書房,2020)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系32

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近現代中国における軍事と社会									
【授業の概要・目的】											
清末から中華人民共和国に至る時期の中国知識人における軍事と平和をめぐる議論の展開を概観する。中国近現代史に対する理解を深めるとともに、近現代中国の軍事と平和に対する見方がどのような特徴をもつのか、それらの特徴はどのような原因によって生じたのか、それらの特徴は中国に特有のものかそれともより普遍的なものか、といった諸問題について考察することを通じて、現在の中国を歴史的に捉える視点を身につける。											
【到達目標】											
東アジア、とくに中国の歴史と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 近代以前の中国の軍事制度の概観 第3回 19世紀末の諸反乱と「督撫重権」 第4回 日清戦争と日本モデル 第5回 「軍国主義」と軍事観の変容 第6回 辛亥革命と民国初期の徴兵制論 第7回 第一次世界大戦と東西文明の評価 第8回 1920年代のミリタリズム 第9回 国民革命と社会への影響 第10回 南京国民政府期の軍事と社会 第11回 日中戦争下の徴兵をめぐる問題 第12回 日中戦争から国共内戦へ 第13回 中華人民共和国の軍制と社会 第14回 講義のまとめ 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点とレポートによる。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

あらかじめ資料を配付する場合はこれを読んだ上で出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系33

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学 文学研究科 准教授				箱田 恵子	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		清末中国における近代外交の形成											
【授業の概要・目的】													
この講義では、清末中国における対外姿勢の変容、近代外交の形成過程について、とくに米国との関係を中心に解説する。中国の漸進的改革の支援を主張した協力政策や留美幼児（米国への官費留学生）の派遣、米国による門戸開放主義の提唱と留美幼童出身者を中心とした清朝外務部の反応など、米清間の友好関係や米国の対中政策が清末の中国外交に与えた影響を考察する。それと同時に、米国における中国人移民排斥とそれに対する反米ボイコット運動など、対米関係が中国における愛国主義形成に与えた影響も取り上げ、清末中国における対外姿勢が、夷務から洋務、外務、そして民族主義的な外交へと変化していくことを考察する。													
【到達目標】													
受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解し、さらに特殊な関係と呼ばれる米中関係が、中国における近代外交の形成に与えた影響を理解し、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から理解する。													
【授業計画と内容】													
基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容の順序や同じテーマの講義回数を調整することがある。													
<ol style="list-style-type: none"> 1.前近代における清朝の対外態勢 2.米清関係の始まりと相互イメージ 3.協力政策とバーリンゲーム使節団 4.留美幼児の派遣 5.米清の友好関係と移民問題 6.新しい移民条約をめぐる交渉 7.清朝の対外紛争と米国の周旋・仲介・仲裁の試み 8.日清戦争後の変化と門戸開放通牒 9.義和団事件 10.米清通商航海条約交渉と自開商埠 11.日露戦争への対応 12.反米ボイコット 13.門戸開放政策と満洲問題 14.ドル外交とその影響 15.外務から外交へ 													
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----													

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
毎回資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけでなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系34

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立教大学 文学部 教授 上田 信			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		史的システム論に基づく東ユーラシア圏域史									
【授業の概要・目的】											
<p>人類はいま歴史的な転換点に立っている。地球温暖化に起因する異常気象、COVID-19などのパンデミック、深刻な経済格差、民主主義の機能不全と権威主義の台頭、さらに全人類の人口がまもなく減少に転ずると予測されている。私たちはよりよい一歩を踏み出すために、長期に亘る歴史的な展望を持つ必要に迫られている。</p> <p>本講義では展望を得るための方法論として「史的システム論」を提示し、日本が立地する空間軸として「東ユーラシア圏域」を措定する。現在を相対化する時間軸として16世紀から20世紀までを範囲として、下記のトピックを取り上げて検討する。</p> <p>明代民間知識人が観た日本 人口の視点で見た17世紀以降の中国・朝鮮・日本 ペストをめぐるアジアの歴史</p>											
【到達目標】											
地球全体の歴史を俯瞰する視点（鳥の目）と地域社会の歴史から仰視する視点（虫の目）とを架橋しうる知的な跳躍力を身につけ、自らの思索と実践に活かせるようにする。歴史的に生起するさまざまな事象について、モノ・ヒト・イミの次元から、全体的に分析していく力を養う。											
【授業計画と内容】											
第I部（初日）史的システム論と東ユーラシア圏域											
第1回 システム論的な思考法											
第2回 モノ・ヒト・イミの3つの次元											
第3回 東ユーラシア圏域と生態環境											
第II部（2日目）明代民間知識人が観た日本											
第4回 ヒト（人物）の歴史											
第5回 16世紀の海域アジア											
第6回 明代知識人の諸相											
第7回 鄭舜功『日本一鑑』を読む											
第III部（3日目）人口から観た17世紀以降の中国・朝鮮・日本											
第8回 歴史人口学的研究の方法											
第9回 18世紀中国の人口爆発はなぜ起きたのか											
第10回 20世紀から現在にいたる中国人口史											
第11回 朝鮮と日本の人口史											
第4部（4日目）ペストをめぐるアジアの歴史											
第12回 雲南の風土病から世界的パンデミックになるまで											
第13回 関東軍731部隊による細菌戦											
第14回 戦争における責任について考える											
総括											
第15回 人類史上の転換期における歴史学の役割											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

本講義は担当者（上田信）の特異な歴史観に基づいて展開されるため、事前に下記の教科書・参考書を読んでおくことが期待される。なお、直接に講義に関する部分については、抜粋して事前にネット経由で送付する予定。

[成績評価の方法・観点]

評価60%：講義への参画度。講義では質疑応答・討議の時間を多く設ける。これらの機会での積極的な発言や参与を評価する

評価40%：レポート。本講義で展開される方法論に基づいて、各自の問題関心を展開し、レポートにまとめる。

[教科書]

上田信『歴史を歴史家から取り戻せ！ 史的な思考法』（清水書院、2018年）ISBN:978-4-389-50084-9（史的システム論を概説しています）

上田信『岩波講座世界歴史 12巻』（岩波書店、2022年近刊）（上田担当の「展望A」で、15～18世紀の東ユーラシア圏域の歴史を取り上げています。）

上田信『人口の中国史 先史時代から19世紀まで』（岩波書店、2020年）ISBN:9784004318439（本講義と直接関わる箇所は第4章～第6章。なお電子書籍版は間違いが修正されている。）

上田信『ペストと村：七三一部隊の細菌戦と被害者のトラウマ』（風響社、2009年）ISBN:9784894891357（フィールドワークに基づく著作。史的システム論の実践例となる。）

講義と直接に関わる部分を抜粋して、事前にネット経由で送付する。事前に読んでおくこと。講義のあとでも構わないが、書籍の全体を読了することが望ましい。

[参考書等]

（参考書）

上田信『中国の歴史9 海と帝国 明清時代』（講談社、2021年）ISBN:978-4-06-522777-0（学術文庫版。ハードカバー版（2005年出版）の誤りを修正し「あとがき」を加筆。）

上田信『シナ海域 屋気楼王国の興亡』（講談社、2013年）ISBN:978-4-06-218543-1（源義満（足利義満）・鄭和・王直・鄭成功などを取り上げる。海域アジア史の列伝。）

上田信『東ユーラシアの生態環境史』（山川出版社、2006年）ISBN:978-4-634-34830-1（モノ（茶葉・銅）から見た東ユーラシア圏域の歴史。）

講義のあとに読んでおくことが期待される。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に送付するテキストを集中講義の前に読了し、質問・コメントができるように準備しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

電子メール <ueda@rikkyo.ac.jp>

件名の冒頭に必ず【京都大学集中講義】と明示すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		隋唐王朝の国制 概観と淵源									
【授業の概要・目的】											
<p>古代日本にも多様な形で影響を与えた隋唐王朝の国制（統治機構）については、これまで膨大な研究の蓄積がある。この講義では、北朝末から唐代前期までの政治制度について、政治史の動向にも目を配りつつ、概観する。ともすれば、静的なイメージで捉えられがちなこの時代の政治制度が、大きな変貌を遂げていることを改めて認識していただければと思う。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本の「律令制」に大きな影響を与えた隋唐時代の国制について、その背景となった政治動向を踏まえ、総合的に理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について、おおむね2週を目途に講義を進める。 なお、初回授業（ガイダンス）時に、学期の授業計画および講義で必要される諸事項について説明を行うので、必ず出席すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．隋唐王朝の成立事情と国制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 周隋革命と開皇の国制 (2) 唐王朝の成立事情と唐初の国制 2．開元官制の成立 『周礼』とのかかわり <ol style="list-style-type: none"> (1) 中央官制 (2) 地方官制 3．隋唐の律と令 <ol style="list-style-type: none"> (1) 律 (2) 令 4．礼制 5．軍制 6．税役制度 7．まとめとフィードバック 											
【履修要件】											
<p>中国史に関する概説的知識を身につけていること（事前に、概説書を一読しておくこと）。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートの成績による。(100%)

レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

適宜、講義資料を配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

中国史に関する概説書(「参考書等」に掲げる参考文献もその一つ)を事前に一読しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系36

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐史研究史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>「唐史研究史料論」 今期の講義では、唐史研究で用いる史料について、使用するテキスト（版本）に焦点を当てて論じる。いわゆる「通行本」がいかなる経緯を経てその地位を得たのか、通行本のテキストに問題はないのか、などの点について検討を加えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
唐史研究史料に関する基礎的な知識を身につけるとともに、史料の伝存・整理事情についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマにつて、おおよそ1～2週を目処に講義を進める。</p> <p>0. ガイダンス……学期の授業計画および講義で必要とされる諸事項について説明する</p> <p>1. 正史 『旧唐書』と『新唐書』</p> <p>2. 『資治通鑑』 『通鑑考異』と胡三省注</p> <p>3. 『通典』 政書（1）</p> <p>4. 『文献通考』 政書（2）</p> <p>5. 『唐会要』 政書（3）</p> <p>6. 『大唐六典』</p> <p>7. 『唐大詔令集』 唐代の詔勅</p> <p>8. 『冊府元龜』 類書について</p> <p>9. 石刻史料</p> <p>10. 敦煌・トルファン出土文献</p> <p>11. まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
中国史、特に秦漢～隋唐史に関する基本的な事項（概説レベル）を理解していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポートの成績による。（100％） レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。 よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
必要に応じてプリントを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中に紹介した参考文献を自主的に閲読し、講義内容に対する理解を各自深めること。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系37

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇3)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮時代後期(17~18世紀)の政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史と関連づけながら朝鮮の歴史を理解することを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本語で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 朝鮮時代史とその史料 第2講 礼訟の時代 第3講 己亥・甲寅の礼訟 第4講 庚申の獄 第5講 老論と少論 第6講 唐米の輸入 第7講 荒唐船の出没 第8講 常平通寶 第9講 新銀問題と対日外交 第10講 正徳度通信使 第11講 定界碑 第12講 萬東廟と大報壇 第13講 家禮源流と斯文處分 第14講 丁酉獨對 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
【教科書】											
使用しない 講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社)ISBN:9784634462137
姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』(朝日新聞出版)ISBN:9784022599063
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房)ISBN:9784827331110
矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店)ISBN:9784653043713

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇4)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮時代後期(17~18世紀)の政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史と関連づけながら朝鮮の歴史を理解することを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 辛壬士禍 第2講 蕩平策 第3講 戊申・李麟佐の乱 第4講 銓郎権の撤廃 第5講 常平通寶の増鑄 第6講 均役法 第7講 乙亥・尹志の獄 第8講 壬午禍變 第9講 外戚の争い 第10講 奎章閣 第11講 華城の造営 第12講 辛亥通共 第13講 正祖朝の學藝 第14講 五晦筵教 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社) ISBN:9784634462137

姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』(朝日新聞出版) ISBN:9784022599063

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房) ISBN:9784827331110

矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店) ISBN:9784653043713

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系39

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史文化学系40

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。前期の3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史文化学系41

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近世の訴訟と地域社会									
【授業の概要・目的】											
<p>明清時代を対象とする中国近世の法制史研究では、近年、地域社会において実は訴訟を起こすこと自体がかなり身近なものであり、「健訟」（盛んに訴訟を行う）と呼ばれるような状況が現出していたことが明らかにされている。本講義では、明清時代の裁判機構、法典、裁判文書について概要を説明した後、明清時代の裁判の性格をめぐる議論を整理しながら、地域社会の秩序形成を紛争と調停、判決の性格といった視点から捉えなおしてみる。史料としては、基本法典のほか、行政最末端の地方官庁レベルの裁判史料、さらに司法官が自らの名裁きを誇示するために出版した判決集＝判牘を用いることにする。</p>											
【到達目標】											
中国近世の法と裁判について基本的な事項を理解するとともに、古典漢文や中国語史料の読み方・使い方を学び、自ら史料分析を行う能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：明清時代の裁判機構 第3回：明清時代の法典 第4回：明清時代の裁判文書（一） 中央档案と地方档案 第5回：明清時代の裁判文書（二） 判牘 第6回：明清時代の紛争と調停 第7回：明清時代の判決の性格 第8回：明清時代の人々にとって訴訟はどれくらい身近なものだったか？ 第9回：誰が訴状を書いたか？ 代書 第10回：当時、弁護士はいたか？ 訟師 第11回：訴訟関係者はどのようにして呼び出されたか？ 胥吏・衙役 第12回：訴訟関係者はどこに宿泊したか 歇家 第13回：州県行政から見た裁判と徴税 第14回：明清時代の訴訟と地域社会 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%、授業中の小テスト・小レポート50%で総合的に判定する。詳細は初回授業にて説明する。

[教科書]

授業中にレジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各授業の最後に、次回の授業に関係の深い書籍や論文を紹介するので、次週までに目をとっておくことを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系42

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近世の民間信仰と国家 関羽信仰を事例として									
【授業の概要・目的】											
<p>中国の文化はいろいろな意味で、周辺各国・地域におよんでいる。日本でも人気のある『三国志演義』もそうした中国から伝播してきた文化の一つであるといっていよう。それは単に小説として人気を集めただけでなく、華僑・華人によって民間信仰としても運ばれていった。本授業では、おもに中国明清時代以降、『三国志演義』の英雄・関羽がいかにして「人」から「神」へと変貌を遂げ、それがモンゴル、新疆、チベット、台湾などにどのように伝播していったか、関羽に関する靈威伝説がいかにか創出され、人びとのあいだに受容されていったかについて、ユーラシア東部を広く見渡しながらか位置づけてみたい。中国における民間信仰のあり方に関する知見を広めるとともに、民間信仰に関する歴史史料の読解力についても身につけてもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の民間信仰に関する歴史文献とフィールドワーク、歴史学・人類学といった各学問のディシプリンを乗り越えた研究手法を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：領域統合と民間信仰 第3回：唐朝から明朝における関羽の神格化 第4回：清朝と関聖帝君の「顕聖」(1) 第5回：清朝と関聖帝君の「顕聖」(2) 第6回：関帝廟という装置 第7回：「白蓮」の記憶(1) 第8回：「白蓮」の記憶(2) 第9回：清朝のユーラシア世界統合と関聖帝君(1) 第10回：清朝のユーラシア世界統合と関聖帝君(2) 第11回：清朝の版図・王権と関羽信仰(1) 第12回：清朝の版図・王権と関羽信仰(2) 第13回：国家と宗教(1) 第14回：国家と宗教(2) 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に行う小テスト50%（持ち込み不可）、平常点50%で総合的に評価を行なう。詳細は初回授業にて説明する。

[教科書]

太田 出 『関羽と霊異伝説 清朝期のユーラシア世界と帝国版図』（名古屋大学出版会、2019年）
ISBN:978-4-8158-0961-4
詳細は初回の授業において説明するので、必ず出席すること。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書のほか、参考にすべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加して欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系43

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代制度史と出土文字史料									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国簡牘史料の発見史 3. 楚簡の概観 4. 秦簡の概観 5. 墓葬出土漢簡の概観 6. 辺境出土漢簡の概観 <p>初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。</p>											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末のレポート(50点)に平常点(授業中の質問・発言、小テスト 50点)を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系44

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		簡牘より見た始皇帝の時代									
[授業の概要・目的]											
近年公表されている秦代の出土文字史料（岳麓書院所蔵簡・里耶秦簡など）を活用しつつ、始皇帝の時代について講義する。始皇帝個人の一生を紹介したうえで、中国全土を支配することになった秦王朝が如何なる問題に直面し、そのためにどのような制度が整えられていたのかを分析する。特に秦による征服と統治の展開を、制度面から跡づけていく。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス 2．始皇帝の人生 3．統一戦争の諸相 4．多元世界の統一 5．占領統治の実態											
初回のガイダンスの後、各単元を3～4回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート（50点）に平常点（授業内での質問・発言、小テスト 50点）を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系45

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モノからみる中国近代史									
【授業の概要・目的】											
<p>近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国経済の仕組み 3. 中国茶貿易の発展 4. アジア間競争と中国茶の行方 5. アヘン貿易の発展 6. 中国アヘンの発展 7. 日中戦争とアヘン 8. 中国の米生産と動乱 9. 外国米貿易の発展 10. 羊毛貿易の勃興 11. 羊毛と内地経済 12. 大豆貿易の発展と満洲の開発 13. 大豆貿易と中国政治 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系46

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきている。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性は高い。新型コロナウイルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 明清時代の商業と牙行 3. 清代海上貿易の展開と仲介者 4. アヘン貿易と仲介者 5. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 6. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 7. 苦力貿易と客頭（1） 8. 苦力貿易と客頭（2） 9. 開港場貿易の発展と行棧（1） 10. 開港場貿易の発展と行棧（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系47

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
【到達目標】											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス（1回） 2．石刻学・石刻研究史の概観（2～3回） 3．石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（2～3回） 4．石刻史料積読（7～9回） 5．まとめ（1回） <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>											
【履修要件】											
前期・後期つづけて履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
【教科書】											
積読史料はプリントなどを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

積読する史料を指定したあとは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系48

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
[授業の概要・目的]											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
[到達目標]											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
[授業計画と内容]											
<p>1．ガイダンス（1回） 2．石刻史料積読（13回） 3．まとめ（1回）</p> <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p>											
[履修要件]											
前期・後期つづけて履修することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
[教科書]											
積読史料はプリントなどを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
積読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系49

科目ナンバリング		G-LET24 76741 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系50

科目ナンバリング		G-LET24 76741 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
【授業の概要・目的】											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
【到達目標】											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
教材は担当教員が準備する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系51

科目ナンバリング		G-LET24 76743 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		茅元儀『石民四十集』の書簡を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>明末に『武備志』という浩瀚な兵書を著したことで知られる茅元儀の文集『石民四十集』に収録される書簡を主に読む。今年度は天啓七年(1627)から崇禎四年(1631)までの書簡と上奏を読む。新しい皇帝が即位すると、彼も再浮上し、いったん失脚したものの、再び戦いの前線に立つことになる。しかし、それもつかの間に終わり、福建に流罪となる。彼の人生の中でもとりわけ起伏の激しい時期であり、明朝にとっても激動の時期であった。この授業では、彼の視点を通して崇禎初年の明朝国家のありようを眺めることも目的としている。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、書簡を歴史史料としてどのように読むべきかを知ることができる。 3、明人の政治・文化観を知ることができる。 											
[授業計画と内容]											
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。第1回目に、これまで五年間本書を読んできたことをもとにした解説を行い、新規受講者に予備知識を与える。 以下、2回目～14回目まで、毎回書簡を1本ないし2本を読む。 15回目 フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
テキストはこちらから配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系52

科目ナンバリング		G-LET24 76743 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『明清档案』									
【授業の概要・目的】											
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治六年(1649)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 回 『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治元年～五年にわたる政治情勢について解説する。1 コマにつき一、二本を読む予定。 2 ～ 1 4 回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。 1 5 回 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 東洋史学(演習II)(2)へ続く -----											

東洋史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系53

科目ナンバリング		G-LET24 76745 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習Ⅲ） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲氷室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲氷室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲氷室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価する。											
[教科書]											
<p>使用しない</p> <p>プリントをコピーして配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>（参考書）</p> <p>梁啓超『新民説』（平凡社）ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』（岩波書店）ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』（岩波書店,2020）ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系54

科目ナンバリング		G-LET24 76745 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲氷室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲氷室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲氷室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>梁啓超『新民説』(平凡社) ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』(岩波書店) ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』(岩波書店,2020) ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系55

科目ナンバリング		G-LET24 76749 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業ではまず、以前の1945年、1981年に採択された二つの歴史決議がどのように制定され、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。とりあえずは、二つの決議を読解・分析し、決議で述べられているそれぞれの歴史事象がどのようなものだったかを調べ、党の歴史のアウトラインをたどることにする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動（政治運動）がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3-8回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 9-14回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 15回 第1、第2の決議に関して総合討論を行う。</p>											
【履修要件】											
<p>決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。</p>											
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----											

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系56

科目ナンバリング		G-LET24 76749 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む（続）									
【授業の概要・目的】											
中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業では以前の二つの歴史決議の起草・採択の経緯をおさえた上で、三つ目の決議の起草・制定の経過を探り、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。三つの決議を比較・検討し、決議を制定することで、現政権が何を求めようとしているのかを分析する。											
【到達目標】											
中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動（政治運動）がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。											
【授業計画と内容】											
1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 4回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 5-12回 2021年に採択された「党の百年にわたる奮闘による大きな成果と歴史的経験に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 13-14回 三つの決議それぞれの特徴とその違いについて総合的に討議を行う。 15回 フィードバック。											
【履修要件】											
決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。											
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----											

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系57

科目ナンバリング		G-LET24 76749 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近現代中国思想史に関する文献の講読									
[授業の概要・目的]											
近現代中国の思想史を扱った、研究史上重要な論文や研究書を講読する。特に、それらがどのような文脈や史料状況、問題意識の下で書かれたものか、論証の過程や結論にどのような特徴があるか、同分野の研究の展開にどのような影響を及ぼしたか、といった点から検討を加えることで、それらの研究のもつ意味についての理解を深める。											
[到達目標]											
中国近現代史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
近現代中国の政治・社会・思想に関する研究書を読解し、問題の所在や証明の方法について検討する。 テキストの担当を決め、担当者が内容要約と解説、コメントを行い、それについて参加者全員で討議を行う。 第1回 ガイダンス、授業の進め方や分担の決定。 第2回 教員によるテキスト講読 第3-14回 受講者によるテキスト講読 第15回 フィードバック また、必要に応じて論文作成に向けての研究報告とコメント、討議を行う。											
[履修要件]											
中国語を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
報告に関する評価および授業への取り組みなどの平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
演習という形式上、担当者だけでなく、受講者全員に相応の予習・復習を要求する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系58

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国古代史史料学									
[授業の概要・目的]											
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。											
[到達目標]											
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。</p> <p>第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系59

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国古代史史料学									
[授業の概要・目的]											
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。											
[到達目標]											
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。</p> <p>第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系60

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		The “ Global ” and the “ Local ” in Early Modern East Asia									
【授業の概要・目的】											
<p>プリンストン大学、復旦大学、そして東京大学の研究者たちが、グローバル・ヒストリーの可能性、東アジアにおけるグローバル・ヒストリーの研究・教育の意義を論じた論文集（2017年刊行）を読む。グローバル・ヒストリーは現在、世界的に盛行しているように見えるが、国によってその研究・教育が置かれている状況はさまざまである。本論文集を読むことで、日本におけるグローバル・ヒストリー研究を相対化することもできるかもしれない。ラインナップは次の通り。</p> <p>Zhaoguang Ge（葛兆光）：Is There Still Value in National History in the Trend towards Global History? Federico Marcon: Is a World History of Ideas Possible? Takahiro Nakajima（中島隆博）：Conditional Universality and World History in Modern Philosophy in East Asia Masashi Haneda（羽田正）：A New Global History and Regional Histories Benjamin A. Elman: A Jointly Regional-Global Approach to Rethinking Early Modern East Asian History Jin Sato（佐藤仁）：Internationalization from Within: 140 Years of Internationalization at the University of Tokyo Yunshen Gu(顧雲深): Innovation ;A Case Study of the Development of World History in the History Department of Fudan University Shaoxin Dong（董少新）：The Pros and Cons of the Construction of a Historical World Norihisa Baba（馬場紀寿）：From Sri Lanka to East Asia: A Short History of a Buddhist Scripture Tineke D’ Haeseleer: ‘ Nobody Changed Their Old Customs ’ ;Tang Views on the History of the World Xinlei Wang（王#37995磊）：The Korean Response to Xue Xuan ’ s Enshrinement in Ming Confucian Temples Yasushi Oki（大木康）：Literature of the Sixteenth and Seventeenth Century World Paize Keulemanns: Tales of an Open World: The Fall of the Ming Dynasty as Dutch Tragedy, Chinese Rumor, and Global News Zhenzhong Wang（王振忠）：The Regulation of Sailors in the Maritime Trade between Jiangnan and Nagasaki in Early Qing China Sheldon Garon: The Transnational History of Japanese Thrift</p>											
【到達目標】											
<p>1 , グローバル・ヒストリー研究の潮流を知ることができる。 2 , アメリカ・中国・日本の研究のスタンスの違いを知ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1、趣旨説明 2～14回 受講生が上記の論文から各1本を選択して内容を紹介、批評する。</p>											
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----											

東洋史学（演習）(2)

15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当者は論文紹介のレジюмеを作成すること。著者の他の仕事もリストアップしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

書物は購入する必要はありません。講師がコピーを提供します。
受講者はきわめて少ないと予想されるので、他専修からの参加を歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系61

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		外国語論文のレビュー									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、受講者が自らの関心にしたがって外国語(受講者にとっての外国語。英語でも、中国語でも、他の言語でもよい)の論文を選んで、その内容を紹介するとともに、その論文の学界における位置づけを参加者(講師も含む)にわかりやすいように行う。</p> <p>かつては、言語ごとに論文のスタイルはずいぶん異なっていた。現在でも、日本語、中国語、英語それぞれ特有の「癖」は存在するが、英語論文の影響により、かなり平準化してきている。外国語論文を読むことで、ある種のスタンダードを知るとともに、その問題点を個々の受講者が感じ取るようになれば、この授業の目的は達成される。</p>											
【到達目標】											
<p>1、外国語論文の「癖」を知ること、自国語論文のスタイルについて再考することができる。</p> <p>2、日本では数少ない「論文のレビュー」(『史学雑誌』の「回顧と展望」は、単なる紹介に過ぎない)を授業の場で公表し、それに対する疑義を受け止めるなかで、自分なりの評価の型を作ることができる。</p> <p>3、査読者の立場に身を置くことで、投稿者としての自己を振り返ることができる(ちなみに、査読付きの論文だからといって、これ以上の査読を必要としないほどに完成しているわけではない)。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回 全体の趣旨説明</p> <p>2～14回 受講者が1回分を担当する。時間の半分を論文の紹介、評にあて、残り半分の時間で、出席者全員による質疑応答を行う。受講者の数が少ない場合には、適宜受講者自身の研究発表の場を設ける。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による評価を行う。											
----- 東洋史学(演習)(2)へ続く -----											

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当論文を口頭で紹介する際に、補助材料としてレジュメを作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

参加者は少ないことが予想されるので、他専修からの参加も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム言語哲学史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>《授業全体のテーマ》 通常のイスラーム思想史ではほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態（なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学）がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。昨年度の講義では、ロジェ・アルナルデス（Roger Arnaldez）がイブン・ハズム（西暦1064年歿）を論じた研究書（Grammaire et Theologie chez Ibn Hazm de Cordoue, Paris, 1956）を採り上げた。残念ながらその研究書全体を扱うことが出来なかった。今年度は、やや趣向を変えてフランスにおけるイスラーム思想研究の一つの流れに焦点を当てたい。ロジェ・アルナルデスの研究書は、イブン・ハズム／ザーヒル主義研究の金字塔であるばかりでなく、イスラーム思想を言語思想の方向から読むという点で画期的であった。それを継承するのが、ジャック・ランガド（Jacques Langhade）の研究である（Du Coran a la Philosophie, Damas, 1994）。ランガドがアルナルデスの全面的な指導の下に同書を完成させたのは、同書序に見えるとおり。</p> <p>本講義では、アルナルデスのイブン・ハズム研究書の後半部分とランガドの研究書を扱う。詳細は、授業計画をご覧ください。アルナルデスの研究書は、イスラーム思想研究に重要な示唆を与える点が多々あった。取り分けて日本人にとって重要なのは、井筒俊彦の英文著作群に意味論という方法論を与えるものであったことだ。アルナルデスでは、まだ萌芽的であった意味論が、ランガドでは、徹頭徹尾使い尽くすし方で扱われているのが興味深い。井筒の意味論が如何なるものであったかは、アルナルデス、ランガドのフランス語圏イスラーム思想研究での意味論研究の深まりと比較することなくして十分な評価ができないのではないか。</p> <p>ランガドの研究対象は、クルアーンやハディース（ムハンマドの言行録）の意味論から、アラビア文学、いわゆる宗教諸学を經由して、ファーラービー（西暦950年歿）の言語論に至る。その意味論の探究は、イスラーム文化が言語を如何に認識したかに焦点が当てられる（その分析に意味論が使われる）。現在、イスラーム哲学（ファルサファ）研究は、ほぼ同時代のイスラーム思想（コンテキスト）を無視する形で行われるが、ランガドの研究書は、その状況を打破する格好の素材であろう。</p> <p>なお二つの研究書は仏文であるが、事前に和訳と原文テキストを配布する。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語／アラビア語」を研究対象とするのは、限られた思想家だけでない。或る意味で既にクルアーンにおいてそうした傾向が見えるし、主要な思想家たちはほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想／言語哲学であることを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来のイスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。</p> <p>本講義は、アルナルデスが扱うイブン・ハズムにおける論理学と文法学と、ジャック・ランガドが扱うファーラービーにおける論理学と文法学が対比される。イスラーム思想界において論理学と文法学の位置づけがさまざまになされるのを目の当たりにすることになる。イスラーム思想において、論理学／文法学の問題がただならぬ問題であることを考察できる。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[授業計画と内容]

基本的にR・アルナルデス『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』並びにJ・ランガド『クルアーンから哲学へ』の章立てに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい 鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に私の日本語訳を配布するので出来る限り眼を通しておいていただきたい。

- | | | |
|------|----------------------------|--|
| 第1回 | 概説 | フランスのイスラーム思想研究、意味論、井筒俊彦 |
| 第2回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(1) | イブン・ハズムの対人論理(イブン・ハズムの言語哲学概説) |
| 第3回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(2) | ザーヒル法学派とシャーフィイー法学派の対抗 |
| 第4回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(3) | ハディース批判など |
| 第5回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(4) | イブン・ハズム神学(1)イブン・ハズムの論敵たち(ムウタズィラ派とアシュアリー学団) |
| 第6回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(4) | イブン・ハズム神学(2)イブン・ハズムの批判神学 |
| 第7回 | 『クルアーンから哲学へ』(1) | クルアーンとハディースの言語観/言語の意味論(1) |
| 第8回 | 『クルアーンから哲学へ』(2) | クルアーンとハディースの言語観/言語の意味論(2) |
| 第9回 | 『クルアーンから哲学へ』(3) | アラビア語散文学における言語観/言語の意味論 |
| 第10回 | 『クルアーンから哲学へ』(4) | 法学・神学・神秘主義における言語観/言語の意味論 |
| 第11回 | 『クルアーンから哲学へ』(5) | 文法学・辞書学における言語観/言語の意味論 |
| 第12回 | 『クルアーンから哲学へ』(6) | ファーラービーの言語理論(1)諸言語の形成と諸学における術語形成 |
| 第13回 | 『クルアーンから哲学へ』(7) | ファーラービーの言語理論(2)哲学言語の形成 |
| 第14回 | 『クルアーンから哲学へ』(8) | ファーラービーの言語実践(1)論理学vs.文法学 |
| 第15回 | 『クルアーンから哲学へ』(9) | ファーラービーの言語実践(2)哲学概念の分析 |

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

使用テキストは、R. Arnaldez, Grammaire et Theologie chez Ibn Hazm de Cordoue: Essai sur la structure et les conditions de la pensee musulman, Paris: Librairie Philosophique J. Vrin, 1956とJ. Langhade, Du Coran a philosophie: La langue arabe et la formation du vocabulaire phisologique de Farabi, Damas: L' Institut Francais d'Etudes Arabes de Damas, 1994.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

西南アジア史学(特殊講義)(3)へ続く

西南アジア史学(特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East									
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものに見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料に参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソング(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p> <p>講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系64

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ムスリムの東方拡大とイラン・イスラーム文化の形成 Muslim expansion to the east and the formation of Iran-Islamic culture									
【授業の概要・目的】											
<p>アラブ人による拡大運動という側面を持った最初期のムスリムによる大征服から、9世紀前半のアッバース朝の分裂に到るまでの間は、イラン文化とイスラームの邂逅、衝突、融合の時期であった。新たな出土資料や、イラン的宗教文化に関する近年の新たな研究動向を参考に、イスラーム教の東方拡大というプロセスの政治・文化・宗教面における特質を考察する。</p> <p>The period from the early Muslim conquest to the Abbasid breakup in the first half of the 9th century was filled with the encounters, clashes and amalgamation of the Iranian culture and the Islam. In this class, the political, cultural, and religious aspects of Islamic expansion to the east is considered by introducing the latest scholarships on the filed.</p>											
【到達目標】											
<p>イスラーム宗教文化の持つ地域性について、そのルーツを考察できるようになる。</p> <p>Achieving the understanding of the local feature of the religious culture of Islam, as well as their origins.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：ガイダンス 第2~第4週：ムスリムの東方拡大プロセスについての概説 第5~第6週：新出資料の解説 第7~14週：反アラブ的宗教運動の分析 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the Muslim conquests to the east. weeks 5-6: Introducing newly discovered materials. weeks 7-14: Various facets of anti Arabo-Islamic movements in the east. week 15: Wrapping up.</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点と期末レポートで評価する。

Evaluation based on the attendance of classes and on the short essay in the end of the semester.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

第7週から14週にかけて、反アラブ的宗教運動に関する研究書、論文を会読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系65

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（ロシア帝政支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従って、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 中央アジア諸国の独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>宇山智彦（編著）『中央アジアを知るための60章』』（明石書店）ISBN:978-4-7503-3137-9（中央アジア研究の入門書）</p> <p>小松久男『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』（東京大学出版会）ISBN:4-13-025027-2</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』
(国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・白杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』 (明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。
連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学 文学部 准教授 五十嵐 大介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マムルーク朝史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>10世紀のイスラーム文明圏は、アッバース朝カリフの弱体化とともに政治的統一性が失われ、各地に軍人政権が登場する、新たな時代を迎える。その中で、軍事奴隷（マムルーク）のクーデターにより成立し、エジプト・シリアという東方アラブ世界（マシュリク）の中心部分を支配したマムルーク朝（1250-1517）は、東方のモンゴル、西方の十字軍といった外敵を退けて軍事的な覇権を確立するとともに、メッカ・メディナの二聖都を保護下に置き、モンゴルによって滅亡したアッバース朝カリフを首都カイロに新たに擁立することで、イスラーム世界の盟主的存在となった。この王朝のもと、エジプト・シリアは経済的繁栄を謳歌するとともに、それ以前からのイスラーム的伝統を受け継ぎながら学術・文化活動が花開いた。本講義は、このようなマムルーク朝史に関する重要なトピックについて、近年の研究動向を踏まえながら、学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>中期イスラーム時代の西アジアの歴史を、イスラーム世界の歴史全体の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。 マムルーク朝史を中期イスラーム時代の西アジアの歴史の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。 マムルーク朝史研究に関する近年の動向と議論について理解し、説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には以下の授業計画にしたがって進めていくが、内容や順序は固定したものではなく、担当者の方針と受講者の背景や理解に応じて担当者が適切に決める。</p> <p>第1回：イントロダクション（本講義の目的と概要） 第2回：マムルーク朝史とマムルーク朝研究史（概論） 第3回：中期イスラーム時代（1000-1500）の西アジアとマムルーク朝 第4回：アヤロニズムと奴隷軍人論 第5回：マムルーク朝の成立をめぐって 第6回：マムルーク朝体制確立期の諸問題 第7回：政治史から見るマムルーク朝史の時代区分 第8回：「マムルーク関係（Mamluk ties）」をめぐる議論 第9回：「マムルーク化（Mamlukization）」をめぐる議論 第10回：マムルークの家族と女性 第11回：社会経済史から見るマムルーク朝史の時代区分 第12回：地方行政とイクター制 第13回：マムルーク体制とワクフ 第14回：マムルーク社会とワクフ 第15回：まとめ</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

アイラ・M・ラピダス 『イスラームの都市社会：中世の社会ネットワーク』（岩波書店，2021年）
ISBN:9784000614689

佐藤次高 『新装版 マムルーク：異教の世界からきたイスラームの支配者たち』（東京大学出版会，
2013年）ISBN:9784130065115

佐藤次高編 『西アジア史1 アラブ（新版世界各国史8）』（山川出版社，2002年）ISBN:
9784634413801

(関連URL)

<https://mamluk.uchicago.edu/msr.html>

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で紹介した参考文献を参照すること。関連URLから関連する論文を調べ参照すること。

(その他（オフィスアワー等）)

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。
メールによる質問も受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系67

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中央アジアのシャリーア法廷裁判研究 A research into shari`a court trials in modern Central Asia									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀から20世紀初頭の中央アジアで作成された法廷文書を史料として、シャリーア法廷裁判のながれ、係争内容について具体的に説明する。</p> <p>This course aims to explain concretely about the process of shari`a court trial and the typical cases settled there by using Central Asian court documents either issued by or submitted to the judges (qadis) during the second half of the 19th and the early 20th centuries.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ シャリーア（イスラーム法）法廷文書の史料としての特性を理解し、自身の研究に活かすことができる。 ・ 史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) have an adequate knowledge about specific characteristics inherent to Central Asian sharia court documents.</p> <p>(2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、時代背景の説明 第2回 ロシア帝政期中央アジアの司法制度概説 第3回 シャリーア法廷の業務とこれを運営する人々：カーディー、ムフティー、書記 第4回 イスラーム法における裁判 第5回~第7回 裁判文書：訴状、判決文、ファトワー、タズキラ 第8回~第12回 ファトワー文書とそこに引用される法学説の分析 第13回~第14回 各種裁判文書による判決台帳テキストの補完 第15回 授業内容のまとめ、および、授業で扱ったトピックについての討議</p> <p>Week 1: Giving a brief sketch of Central Asian history during the 19th and early 20th centuries Week 2: Explaining legal systems of Central Asia under the domination of Russian Empire Week 3: Qadis, Muftis, scribes: Who ran Central Asian shari`a court? Week 4: The trial within the framework of Islamic law Weeks 5-7: The court documents concerning trials: Mahdar (complaint), Hukm (judgment), Fatwa (legal opinion issued by Muftis), Tadhkira (record of proceedings of a trial) Weeks 8-12: Analyzing the main text of fatwa documents with the citations from legal books found in their margin Weeks 13-14: Reconstructing the process from filing suit to delivery of a judgment in shari`a courts of Russian Turkestan</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

Week 15: Feedback and Discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への取組（50％）、期末レポート（50％）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic									
【授業の概要・目的】											
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。</p> <p>第2回~第14回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの徴収方法について述べた箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの用途について述べた箇所の講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work Weeks 2-14: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) explaining how to collect kharaj tax Week 15: Feedback and Discussion</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

Weeks 16-29: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) explaining how to use kharaj tax
Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない
PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 76844 SJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準：アラビア語文を適切に音読し文法に即して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系70

科目ナンバリング		G-LET25 76844 SJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系71

科目ナンバリング		G-LET25 76850 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代トルコ語文法・講読									
【授業の概要・目的】											
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語（オスマン語）文献の講読をおこなう。											
【到達目標】											
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞（1） 第5回 格接尾辞（2）、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞（分詞、連体形） 第13回 副動詞ほか *以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系72

科目ナンバリング		G-LET25 76851 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アラビア語講読									
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。											
以下のように講義を進める。											
1．イントロダクション・テキストの決定											
2～14．テキスト講読											
15．全体のまとめ											
講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。											
これまでに本講義で取り上げてきた主要な書目は以下の通り。											
【用語集】											
クシャイリー「スーフィー派の言表とその意味の書」											
カーシャーニー『スーフィー用語集』											
【伝記】											
ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」											
タシュキョプリユザーデ(ターシュクブリーザーダ)『オスマン朝のウラマーについての紅いアネモネ』											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』：マグリブの聖者伝											
イブン・アラビー『聖霊』(2018)：アンダルスの聖者伝											
【地理書】											
ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』											
【理論書】											
アブー・ハーミド・ガザーリー『宗教諸学の再興』：古典マニュアルの集大成											
アブー・ナジブ・スフラワルディー『修行者たちの作法』：修行論											
アブドゥッラー・ボスネヴィー『叡智の台座注釈』：完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
アフマド・ザルーク『タサウウフの基礎』：理論書											
ジャズリー『信条』：神学書(マグリビー体の練習を兼ねて)											
【詩】											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

イブン・アラビー 『欲望の解釈者』：神秘主義詩

1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

【履修要件】

初級アラビア語を修得していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4

ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な図版が特徴。東長靖監修。)

東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)

山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社)(I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)

西尾哲夫・東長靖編 『中東・イスラーム世界への30の扉』(ミネルヴァ書房, 2021年) ISBN: 9784623091782 (30のトピックから、現代のイスラーム世界を見る。)

その他、教室で指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系73

科目ナンバリング		G-LET25 76851 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語講読 Reading Persian historical text									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ミールホンド（1498年没）が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、アンカラの戦い（1402年）を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course gives the story about the battle of Ankara (1402). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>											
【到達目標】											
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、アンカラの戦いについて叙述する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning the battle of Ankara Week 15: Feedback and Discussion</p>											
【履修要件】											
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。</p> <p>Participation in class and preparation for reading</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。</p>											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系74

科目ナンバリング		G-LET25 76851 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		前モンゴル期ペルシア語文献の解読									
[授業の概要・目的]											
13世紀以前に書かれた古典ペルシア語文献の解読を通じて、イラン・イスラーム文化の初期の様相を学ぶ。											
[到達目標]											
11世紀にガズナ朝の書記アブー・アルファズル・バイハキーが著した歴史書『バイハキーの歴史』を題材に、イスラーム的な文化要素がどのようにイラン世界に根付いていったのか、逆にイラン世界はどのようにイスラーム化されたのかを理解することを目指す。											
[授業計画と内容]											
第一回 古典ペルシア語文献の全般的解説 第二回 『バイハキーの歴史』出現の背景についての解説 第三回～第十五回 ペルシア語テキストの会読											
[履修要件]											
近世ペルシア語文法をすでに学んでいること。できればペルシア語文献解読の経験があるほうが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
出席者には毎回訳註の作成を担当してもらうので、これを含めた平常点を80%、期末に提出してもらうレポートを20%で採点する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
出席者、とくに担当者はしっかりと予習し、訳註の原稿を作成して配布する準備をすること。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系75

科目ナンバリング		G-LET49 89604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語(初級)(語学) Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業は、オンライン形式で実施する。 アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教(イスラーム)の聖典『コーラン(クルアーン)』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム(イスラム教徒)もアラビア語の知識をもっている。 この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話すができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) アラビア語についての概説(1回目) (2) アラビア語学習法の概説(1回目) (3) アラビア文字(2回目から5回目) (4) 名詞(3回目) (5) 冠詞(4回目) (6) 名詞の格変化(5回目) (7) 規則複数(6回目) (8) 形容詞の用法(7回目) (9) 疑問文(8回目) (10) 場所の前置詞(9回目) (11) これまでの復習(10回目) (12) 存在文(11回目) (13) 国名とニスバ形容詞(12回目) (14) 数字の書き方と1~10までの数詞(13回目) (15) 不規則複数(1)(14回目) (16) 色の表現(15回目) (17) 動詞完了形(16回目) (18) 辞書の引き方(17回目) (19) 不規則複数(2)(18回目) (20) 11~100までの数詞(19回目) (21) これまでの復習(20回目) (22) 曜日の表現(21回目) (23) 動詞未完了形(22回目)</p>											
----- アラブ語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

アラブ語（初級）(語学)(2)

- (24) 名詞文と動詞文（語順）（23回目）
- (25) 時間表現（24回目）
- (26) 比較表現（25回目）
- (27) 弱動詞（26回目）
- (28) 動詞派生形（1）（27回目）
- (29) 未来表現（28回目）
- (30) 動詞派生形（2）（29回目）
- (31) これまでの復習と今後の学習方法（30回目）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。前期については対面ではなくオンラインで実施する場合は、当該授業資料をダウンロードして学習した場合に出席したものとみなす。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

西尾哲夫 『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』（臨川書店）（とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章）

西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への30の扉』（ミネルヴァ書店）（中東・イスラーム世界の理解のために必読）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業毎に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系76

科目ナンバリング		G-LET49 89608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 イントロダクション、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形、複合動詞											
第7回 現在形、未来形、副詞											
第8回 現在完了形、命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 数詞											
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について											
（後期）											
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）											
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）											
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）											
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）											
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で4回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

【履修要件】

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

【成績評価の方法・観点】

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

【教科書】

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:荻原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

【参考書等】

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

【授業外学修(予習・復習)等】

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系78

科目ナンバリング		G-LET49 89620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
【授業の概要・目的】											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
【到達目標】											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

【教科書】

使用しない

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く

シュメール語（初級）(語学)(3)

歴史文化学系79

科目ナンバリング		G-LET49 89633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(初級)(語学) Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語(初級)									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1. 導入【1週】											
2. 文字と発音【4週】											
3. 文法と会話【9週】											
4. 中間試験【1週】											
5. 中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6. 文法と会話【8週】											
7. 文法と絵本・新聞講読【6週】											
8. 期末試験【1週】											
9. 期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と筆記試験（期末30％、年度末40％）によって評価する。

[教科書]

町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

[参考書等]

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系80

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とピニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系81

科目ナンバリング		G-LET49 89640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解においては、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2 ~ 3 回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系82

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		山口大学 人文学部 准教授 南雲 泰輔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		410年のローマ市劫略を再考する									
【授業の概要・目的】											
410年8月24日、「永遠の都」と称された都市ローマは、アラリック率いる西ゴート族によって劫略された。3日間にわたって行なわれたこの劫略は、前390/387年頃のガリア人による劫略ののち、およそ800年間の平和を享受してきた「首都」を震撼せしめた事件であり、帝国各地の同時代人たちにも強い衝撃をもって受け止められた。研究史上ではこの事件をめぐるさまざまな見解が提示されてきたが、現在の学界では、その歴史的意義は必ずしも自明のものとして説明されていない。本講義は、この410年のローマ市劫略について、最新の研究成果を踏まえつつ再考を試みる。											
【到達目標】											
後期ローマ帝国時代の政治史の基本的な展開を理解したうえで、先行研究・史資料・授業内容を踏まえ、自らに固有の視点から、410年のローマ市劫略の歴史的意義を説明することができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 導入：弓削達著『永遠のローマ』をめぐる 第2回 後期ローマ帝国史と時代区分 第3回 「永遠の都」ローマとその歴史 第4回 気候変動と帝国の変容 第5回 皇帝がいなくなった「首都」 第6回 ゲルマン人とローマ人 第7回 宮廷の分割と東西帝国の不和 第8回 西ゴート王アラリックとイリュリウム問題 第9回 406年における「蛮族」のライン渡河 第10回 410年のローマ市劫略 第11回 拉致されたアウグスタ 第12回 キリスト教徒と「異教徒」 第13回 「首都」を離れるローマ人 第14回 その後の「永遠の都」 第15回 総括：「世界」を揺るがした三日間 授業計画は一部変更になる可能性がある。 開講日時は8月下旬の予定である。詳細は、5月上旬にKULASISを通じて連絡する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポート(100点)。詳細は授業中に説明する。
なお、成績評価は、到達目標に照らして行なう。

[教科書]

使用しない
資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

弓削達 『永遠のローマ』(講談社(学術文庫)、1991年) ISBN:406158989X (初版:講談社(世界の歴史3)、1976年。)

ブライアン・ワード=パーキンス(南雲泰輔訳) 『ローマ帝国の崩壊〔新装版〕:文明が終わるということ』(白水社、2020年) ISBN:9784560097847

南雲泰輔 『ローマ帝国の東西分裂』(岩波書店、2016年) ISBN:9784000026024

その他、授業中に随時紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:関連文献を読み、授業内容へのイメージを膨らませておく。

復習:授業内容を批判的に復習する。

(その他(オフィスアワー等))

開講日時(8月下旬予定)が採点報告日以降であるため、成績報告は遅れる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 グローバル地域文化学部 教授 水谷 智			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「間-帝国史」の視点からみた日・英帝国における植民地支配と抵抗									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、異なる帝国間の同時代的な関係性を歴史化する「間-帝国史」(trans-imperial history)の視座から、植民地主義とそれへの抵抗の歴史を再考することである。事例として、イギリス帝国と日本帝国およびそれぞれの植民地(特にエジプト・インドと台湾・朝鮮)をとりあげ、議論する。各テーマに2週を割り当て、ディスカッションをとり入れたインタラクティブな授業をおこなう。											
【到達目標】											
帝国史研究および植民地研究についての知識を深めつつ、「間-帝国史」の視点から近代の歴史を問うことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
間-帝国史(trans-imperial history)の理論と方法【第1~2週】											
第1部 間-帝國的協力と植民地統治											
台湾の植民地化の始まりとイギリス人顧問官・W.M. カークウッド【第3~4週】											
朝鮮の保護国化とモデルとしてのイギリスのエジプト支配【第5~6週】											
植民政策の「国際標準」と日本帝国【第7~8週】											
第2部 反植民地主義と間-帝國的緊張											
対立する帝国と独立運動 日本人にとってのインドとイギリス人にとっての朝鮮【第9~10週】											
「反植民地主義的な帝国」(?) 汎アジア主義者と日本の朝鮮統治【第11~12週】											
被支配経験と感情的連帯: インド・朝鮮における抵抗と相互連関【第13~14週】											
総括【第15週】											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

英語の学術論文を参考文献として提示することがあるが、読む努力をいとわない人が受講者として望ましい。

[成績評価の方法・観点]

毎回の質問・コメントの提出（50％）とディスカッションへの参加（50点）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.1dd6f580b031cf12.html>（「間-帝国史」に関するダウンロード可能な拙論が何本かあります。関心のある人は目を通してみてください。）

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ配付された参考文献はできるだけ読む努力をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系84

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系85

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、ジョージア(グルジア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系87

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
【授業外学修(予習・復習)等】											
<p>各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは、月曜3限とする。</p>											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学部 講師 見瀬 悠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		外国人の近世フランス史									
【授業の概要・目的】											
<p>近世フランス王国は王権が社団を介して統治する社団編成国家であり、政治的主権者としての国民によって構成される「国民国家」ではなかった。しかし、近世には国王を中心とした国家形成のなかで、国王の支配に服す臣民共同体としてのナションと、それに対置される「外国人」の概念が創出され制度化されたことはあまり知られていない。さらに、重商主義的競争を背景とする国家の経済発展への欲求は、技術移転や商業振興のための外国人招聘政策と強く結びつく反面、国家の利益保護のための外国人の排除や、治安維持のための外国人監視、徴税請負契約にもとづく外国人の遺産没収も行われていた。この授業では、近世フランスにおける君主制主権国家の形成と発展を外国人史の観点からとらえなおすことを試みる。それによって、従来の研究で十分に論じられてこなかった、近世フランスにおけるナショナルな帰属のもった意味や重みを再評価することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近世フランス王国の歴史に関する基本的な事項を理解し、説明できるようになる。 ・近世国家の特徴を多角的に説明できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：先行研究と問題提起 第2回 中世末期における君主制主権国家の形成と外国人 第3回 外国人の法的地位 第4回 外国人の帰化 第5回 重商主義と外国人 第6回 フランス植民地と外国人 : フランス植民地政策 第7回 フランス植民地と外国人 : 排他制と外国人 第8回 外国人の監視と統制：パリの事例を中心に 第9回 外国人遺産取得権の実施 : 司法制度と史料 第10回 外国人遺産取得権の実施 : 対象となった外国人 第11回 外国人遺産取得権の実施 : 外国人の回避戦略 第12回 外国人をめぐる言説 : 臣民共同体からの「自然」な排除 第13回 外国人をめぐる言説 : 啓蒙期のコスモポリタニズムと外国人 第14回 フランス革命と外国人 第15回 総括とフィードバック</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

授業に参加する前提として、近世フランス史の大まかな流れについて概説書などで予習しておくことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

最終試験（70点）、授業への参加状況（30点）

- ・授業の最後に授業の理解度をはかるためのリアクション・ペーパーを書いてもらうので、その内容により授業への参加状況を判断する。
- ・最終試験（筆記）を実施する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・授業で関連文献を紹介するので、それらを読んで授業内容の理解を深めるよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問については、リアクション・ペーパーで受け付けます。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じharukamise@osaka-u.ac.jpにメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学 文芸学部 准教授 函師 宣忠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世ヨーロッパにおける紛争と裁判									
【授業の概要・目的】											
この講義では、中世ヨーロッパの紛争や裁判に関するトピックを取り上げて、史料のあり方に着目しながら「メディアとコミュニケーション」という観点から具体的に検討していく。過去のヨーロッパ社会を生きた人々は、争いや諍いにどのように対処していたのか。あるいはいかに裁かれたのか。法と裁判のあり方（ひいては紛争と紛争解決のあり方）は、その時代の社会の構造や人々の価値観を映し出す。紛争の記録や裁判記録など関連する史料を読み解きながら、当時の社会について理解を深めたい。また現代の日本社会との比較を通じて、私たちが当たり前に取り扱っている現代社会のありようを見つめ直すきっかけをもちたい。											
【到達目標】											
<p>歴史的な知識の習得：中世ヨーロッパ社会の歴史過程について基本的な知識を習得する。</p> <p>歴史学的なまなざしの獲得：歴史的な史料の性質を踏まえて、そこから読み取れる内容について判断できるようになるとともに、歴史を学ぶ意味について考えを深める。</p> <p>法的思考の涵養：法の根本的な価値や考え方を理解し、社会的判断力を培う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン：中世とは何か？</p> <p>第2回 中世における記憶と記録</p> <p>第3回 紛争のなかのヨーロッパ中世</p> <p>第4回 紛争と紛争解決1：神判・宣誓・決闘裁判</p> <p>第5回 紛争と紛争解決2：フェーデと神の平和</p> <p>第6回 紛争と紛争解決3：中世都市と暴力</p> <p>第7回 中世におけるキリスト教と異端</p> <p>第8回 異端審問と権力1：異端審問とは何か？</p> <p>第9回 異端審問と権力2：審問記録の作成・保管・利用</p> <p>第10回 ジャンヌ・ダルク裁判1：ジャンヌ・ダルクとその時代</p> <p>第11回 ジャンヌ・ダルク裁判2：審問記録を読む</p> <p>第12回 近世への展望1：国王裁判と恩赦嘆願</p> <p>第13回 近世への展望2：魔女裁判と拷問による自白</p> <p>第14回 まとめ：中世史とは何か？</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業中の小レポート：50%</p> <p>（各回の授業中に小レポートを課す）</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

期末レポート試験：50%

(講義内容の理解を前提に、所定の論点に関する論述式のレポートを課す)

[教科書]

使用しない

講義内容に関連する資料を授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)

服部良久ほか編 『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世] 』 (ミネルヴァ書房、2006年) ISBN:978-4623045921

上垣豊編 『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』 (ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:978-4623087785

各回の講義内容に関連する文献については授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：概説書などを読み、中世ヨーロッパ史に関する基礎的な知識を身につける。

復習：授業内容を振り返り、講義の要点を整理するとともに、授業中に紹介された文献を可能な限り読み、理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の授業終了後に、質問や相談を受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系90

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第二次世界大戦再考									
【授業の概要・目的】											
<p>「20世紀史に決定的な切れ目を記した」(イアン・カーショー)と評される第二次世界大戦が、現代世界を強く方向づけたことは論を俟たない。第二次世界大戦を最新の研究水準に則して理解することは、現代世界に生き、それを乗り越えようとする人々にとって、不可欠の基礎的教養といってもよい。容易ならざる課題ではあるが、近年の研究成果を援用して、きわめて複合的な第二次世界大戦=「20世紀ヨーロッパの苦悩に充ちた歴史の震央」(カーショー)の全体像の構築を試みたい。</p>											
【到達目標】											
<p>高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦の基本的性格 (3回) (2) 前史 (2回) (3) 第二次世界大戦の展開 1939年9月～1941年12月 (3回) (4) 第二次世界大戦の展開 1941年12月～1943年2月 (3回) (5) 第二次世界大戦の展開 1943年2月～1945年8月 (3回) (6) 総括 (1回)</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末のレポートによって評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系91

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中立国の第二次世界大戦：アイルランドに則して									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。イギリスとアメリカから執拗な参戦圧力がかけられ、ドイツによる侵攻が懸念され、国内では厳しい検閲の実施を余儀なくされ、物資不足の深刻化に悩まされ、等々、中立を維持するためにアイルランドはさまざまな難問への対処を求められた。それでもなお中立を貫いたことにはいかなる意味があったのか、後期の授業の中核的な問いはこれである。</p>											
【到達目標】											
戦時における中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> (1) 第二次世界大戦の中立国（1回） (2) アイルランド自由国からエールへ（1回） (3) 「緊急事態」の到来と中立宣言（1回） (4) ナチズムとIRA（1回） (5) 侵攻の脅威と参戦圧力（2回） (6) 対アメリカ関係（1回） (6) 「友好的中立」と戦争協力（2回） (7) 検閲国家（2回） (8) 国民生活（1回） (9) 北アイルランドの大戦経験（1回） (10) 戦後の孤立（1回） (11) 総括（1回） <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
前期の授業を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系92

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食をめぐる研究の方法											
2 明治大正期の食											
3 アジア太平洋戦争までの食											
4 戦後の食											
5 牛乳の歴史学											
6 品種改良の歴史学											
7 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系93

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系94

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝国論：ファーガス・ミラーの仕事とその影響 I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、ファーガス・ミラー（1935-2019）の幅広いローマ帝国史研究を出発点として、その研究史上での意義とその後の研究動向に与えたインパクト、さらにはミラーにたいする批判を幅広く紹介しながら、ローマ帝国史研究の重要な問題にたいする理解を深めることを目的とする。具体的には、ローマ共和政の本質、ローマ帝国支配の属州への影響、ローマ皇帝論、ローマ帝国とギリシア人の関係、ローマ帝国下のユダヤ人とオリエント世界、が主要な論点となる。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業を通じて、ローマ帝国史研究に多大な貢献をおこない、いくつかの分野で現在まで継続するトレンドを生み出したファーガス・ミラーの研究の概要を理解し、その意義と問題点を的確に把握できるようになる。さらに、ミラー以降の研究動向を学ぶことで、歴史学における学説史形成のプロセスを理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. ローマ共和政論（5回） 3. ローマ皇帝論（5回） 4. ローマ帝国支配のインパクト（3回） 5. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験をおこなう。講義内容に関するレポート試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジユメなどをしっかりと復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「ローマ帝国論：ファergus・ミラーの仕事とその影響Ⅱ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系95

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝国論：ファーガス・ミラーの仕事とその影響 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、ファーガス・ミラー（1935-2019）の幅広いローマ帝国史研究を出発点として、その研究史上での意義とその後の研究動向に与えたインパクト、さらにはミラーにたいする批判を幅広く紹介しながら、ローマ帝国史研究の重要な問題にたいする理解を深めることを目的とする。具体的には、ローマ共和政の本質、ローマ帝国支配の属州への影響、ローマ皇帝論、ローマ帝国とギリシア人の関係、ローマ帝国下のユダヤ人とオリエント世界、が主要な論点となる。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業を通じて、ローマ帝国史研究に多大な貢献をおこない、いくつかの分野で現在まで継続するトレンドを生み出したファーガス・ミラーの研究の概要を理解し、その意義と問題点を的確に把握できるようになる。さらに、ミラー以降の研究動向を学ぶことで、歴史学における学説史形成のプロセスを理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. ローマ帝国下のギリシア人（6回） 3. ローマ帝国下のユダヤ人（2回） 4. ローマ帝国とオリエント（2回） 5. 後期ローマ帝国（2回） 6. まとめ・フィードバック（2回） 											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験をおこなう。講義内容に関するレポート試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジュメなどをしっかりと復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「ローマ帝国論：ファergus・ミラーの仕事とその影響Ⅰ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世ポーランド・リトアニア共和国の文化と社会 多様性とコミュニケーションの視点から									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のポーランド・リトアニア共和国は、バルト海南岸から黒海北方のステップ地帯にかけて広がる領域を支配する複合的な国家であった。その国土は東西のキリスト教圏の境界線上に位置しており、住民のなかにはキリスト教徒以外の宗教の信徒も含まれていた。16世紀には、宗教改革の波及によって、宗派的な多様性はさらに高まった。宗教的・言語的・階層的に多様なこの地域の人びとは、どのように社会に統合され、共存していたのであろうか。また、彼らのあいだのコミュニケーションは、どのようになされていたのであろうか。この講義では、具体的な事例の考察をとおして、こうした問題を考えるための手がかりを提示したい。</p>											
【到達目標】											
<p>ポーランド・リトアニアにおける具体的な事例に触れることをとおして、ヨーロッパ東部の近世（16・17世紀）の社会と文化について、宗教・言語・コミュニケーションの視点からみた歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような内容を取りあげる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多宗教・多言語国家としてのポーランド・リトアニア共和国（3回） 近世ポーランドの社会成層観（3回） メルクリウシュ・ポルスキ ポーランド語による最初の新聞（3回） 恋文と新聞のあいだ ポーランド王権のメディア戦略（2回） 文芸共和国とポーランド・リトアニア（3回） フィードバック <p>は宗派と言語、 は階層の視点からポーランド・リトアニア共和国内部の多様性と社会的統合について概観する。 ~ はコミュニケーションの視点からヨーロッパ東部の近世の特徴を考える。のフィードバックの時間に本講義の内容にかんする質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、言語的・歴史的に特別な知識をもっていることを前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

とくに使用しない。授業内容にかかわる資料をオンラインで配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や、ヨーロッパ近世史・東欧史の概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「環大西洋革命とポーランド」を連続して受講すると、16～18世紀のポーランド・リトアニアの歴史を通観することができる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環大西洋革命とポーランド・リトアニア									
【授業の概要・目的】											
<p>18世紀後半は、大西洋をはさんで、アメリカ大陸とヨーロッパ大陸の双方で、政治地図が大きく塗りかえられた時代である。アメリカ大陸では、イギリス領13植民地が本国の支配に武力で抵抗し、アメリカ合衆国として独立した。ヨーロッパ大陸の西方ではフランス革命によって旧体制が崩壊し、東方ではポーランド・リトアニア共和国が周辺の3国によって分割されて消滅した。これらの一連の変化は相互に関連しており、その全体を総称して「環大西洋革命」とも呼ぶ。</p> <p>本講義では、タデウシュ・コシチューシコ（1746～1817）とユゼフ・パヴリコフスキ（1767～1829）という2人の人物の生涯をたどりながら、啓蒙期の知的交流、アメリカ独立革命・フランス革命とポーランド・リトアニアの変革の動き、分割と抵抗が連鎖する経緯を追ってみたい。</p>											
【到達目標】											
この講義をつうじて、ヨーロッパ東部の視点から18世紀後半の一連の変革の歴史的意義を見つめ直し、近世から近代への転換期についての歴史的理解を深めることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような内容を取りあげる。</p> <p>日本人にとっての「コシチューシコ」 『佳人之奇遇』から『天の涯まで』まで 「環大西洋革命」論について 系譜と問題点</p> <p>18世紀のポーランド・リトアニア共和国 社会構造と国制 コシチューシコの生い立ち ヨーロッパ啓蒙の東と西 コシチューシコがフランスで学んだこと コシチューシコの「アメリカ」(1) コシチューシコの「アメリカ」(2) パヴリコフスキの政治思想(1) 人民君主主義 祖国の改革と危機 4年議会から第2次分割へ 「自由・全体・独立」 コシチューシコ蜂起とその帰結 パヴリコフスキの政治思想(2) 王のいない共和政 ナポレオンとコシチューシコ 農奴制と奴隷制 コシチューシコの世界思想 英雄崇拜と神格化 ポーランド人の記憶のなかのコシチューシコ フィードバック(講義の内容についての質問に答える)</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

受講にあたって、言語的・歴史的に特別な知識をもっていることを前提とはしていない。

【成績評価の方法・観点】

学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。
論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。

【教科書】

とくに使用しない。授業内容にかかわる資料をオンラインで配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や、ヨーロッパ近世史・東欧史の概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される「近世ポーランド・リトアニア共和国の文化と社会」を併せて受講すると、16～18世紀のポーランド・リトアニア史を通観できる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、古典期・ヘレニズム期の経済史を刷新したAlain Bresson, <i>The Making of the Ancient Greek Economy</i> (2016) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. テクスト講読（13回） 3. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系99

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。											
【到達目標】											
西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。 後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。											
1. 受講生の研究報告と関連文献の講読（14回） 2. まとめ・フィードバック（1回）											
【履修要件】											
西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。											
【教科書】											
使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 佐藤 公美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史の文献を扱う。</p> <p>今回のテーマは前近代史における「個人」と「行為」である。</p> <p>歴史学の中核には、歴史を動かす主体は何かという問がある。個人か、集団か、構造か。それらの関係はどのようなものか。社会的な動物としての人間の理解にとって、「個」と「個」を超えた「つながり」の諸形態の関係の理解は本質的な重要性を持ち、それゆえに前近代にさかのぼる長期の歴史の中で問われなければならない永遠のテーマである。だがその時私たちの前に立ちはだかるのが「前近代の個人」を考えることは可能なのかという問題だ。</p> <p>今回の演習では、この問いから出発して、最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・ 授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・ 専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・ 各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業は総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、文学研究科の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>I. Epurescu-Pascovici, Human Agency in Medieval Society, 1100-1450, The Boydell Press, 2021.</p> <p>近代を「個人の確立」の時代とみなす長い伝統と、史料上の困難のために、中世の個人は長い間集団に埋没した存在であると考えられてきた（あるいは史料の限界がそのように対象を扱うことを強いてきた）。だが本当にそうなのか。この古くて新しい問に切り込む本書の武器は二つある。社会学における行為理論の積極的導入と、近年有力な史料類型として注目されるエゴ・ドキュメントの利用である。これらを手掛かりに、史料に確かな土台を置きつつ理論と実証を統合する方法も探ってみよう。</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 インTRODクシヨN 取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また中世史を中心にヨ</p>											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

ヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、第2回・第3回に用いる導入用文献の配布を行う。

第2回～第3回 行為理論とエゴ・ドキュメントの史料論の概要について主に日本語の導入的文献を読解し議論を行う。

第4回～第14回 文献Human Agency in Medieval Society, 1100-1450の読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。

第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

I. Epurescu-Pascovici 『Human Agency in Medieval Society, 1100-1450』（The Boydell Press, 2021）
ISBN:9781783275762（テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間に受け付ける他、以下のアドレスへのメール連絡にも対応します。

hitomi@konan-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系101

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 佐藤 公美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
修士論文の作成や自らの研究の深めを目的として各参加者が自らの研究課題を定め、研究方法を学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 修士1回生は自らの研究課題を選択をして史資料や文献を収集、分析し、修士論文へ向けての準備をする。 修士2回生は修士論文のための研究を深化発展させる力を身に着ける。 											
【授業計画と内容】											
<p>参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。</p> <p>また、場合によっては研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習にも一部の時間を充てる。</p> <p>総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、文学部の授業と共通。</p> <p>基本的に以下の計画のそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。</p> <p>第2回～14回 受講生各自の研究発表 個人研究発表と質疑応答・討論を行う。受講生数や個々人の研究の現状に応じて、場合によっては史料論の学習、先行研究の紹介と批判的検討、史料の精読などに時間を割り当てる。</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系102

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパの近世はしばしば「印刷革命」の時代と呼ばれるが、この時代に生じたメディア環境の変革は、活版印刷術の発明と普及という技術的な次元にとどまらなかった。情報の産出・保存・流通の様式と規模が根本的に変化したのであり、それともなって政治・経済・学術・文化のあり方にも転換が生じた。これらの変化の総体を「情報革命」としてとらえ直し、多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>Paul M. Dover, The Information Revolution in Early Modern Europe, Cambridge University Press: Cambridge, 2021.</p> <p>・</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【成績評価の方法・観点】

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回以降： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系104

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
[授業の概要・目的]											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献Linda Colley, <i>The Gun, the Ship and the Pen: Warfare, Constitutions and the Making of the Modern World</i> (Profile Books, 2021)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系105

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
【授業の概要・目的】											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自由報告を行うための準備はおこたりになく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学系106

科目ナンバリング		G-LET26 76961 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学（講読） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学（講読）(2)へ続く -----											

西洋史学（講読）(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

（その他（オフィスアワー等））

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 7M322 SJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 教授 金澤 周作 文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		大学院演習									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講する大学院生が各自の専門研究の成果を発表し、授業に参加する院生・教員全体でその発表にかんして問題点を指摘し議論する。本演習をつうじて、受講者の大学院における研究の発展に資するとともに、西洋史上の様々な時代・地域にかかわる研究テーマ、研究の視角や手法、史料の特徴とその利用の方法などについて相互に理解を広め、また深める場とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋史学を専門的に研究するうえで重要な研究テーマ、歴史研究にかかわる理論や方法、各時代 ・地域の史料の固有の特徴や分析の手法について、相互に発表を聴き合い、議論することをつうじて、理解を深める。 ・自分の関心のある研究テーマについて発表を行なうことにより、受講生各自の専門的な研究の深化をめざす。 ・修士課程の受講生の場合には、演習での議論をふまえて修士論文の完成度を高めることが求められる。また、博士後期課程の受講生については、演習での発表と議論の成果をふまえて課程博士論文を作成することが期待される。 											
【授業計画と内容】											
各受講生は第1～30回の授業の中で、原則として2回（前期・後期に各1回）、個人研究の成果を発表する。研究報告は、修士課程の院生には修士論文作成のための中間報告であり、博士後期課程の院生には、学位論文作成の節目となる。それ以外にも、その都度、興味を持ったテーマや、新しい研究動向などについて報告し、時代と地域を越えた議論の機会を提供することも重要である。また院生全員、教員全員が参加して議論することにより、オープンで集団的、客観的な研究指導を行う場としての意味を持つ。											
フィードバックについては、授業中に指示する。											
【履修要件】											
大学院生のみ。											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の討論への参加、2回（前期・後期各1回）の報告にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて総合的に評価する。											
----- 西洋史学(演習)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特になし。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・受講生には年2回の発表が課されるため、そのための準備を授業時間外に行なうことが必要である。
- ・他の受講生の発表を聴いて議論に積極的に参加するために、西洋史学を研究するうえで重要な課題・理論・研究手法についてあらかじめ幅広く学んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		武寧王陵の考古学									
【授業の概要・目的】											
1971年に発見された武寧王陵は、百済考古学のみならず、東アジアの考古学研究に少なからずの影響を与えてきた。本講義では、武寧王陵とその出土遺物について個別に検討する中で、その歴史的意義について検討をおこなう。											
【到達目標】											
東アジア考古学における武寧王陵の歴史的意味について学ぶ。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の順序で講義を行う</p> <p>第1回 武寧王陵を学ぶ意味</p> <p>第2回 百済史の中における武寧王</p> <p>第3回 武寧王陵が発見されるまで</p> <p>第4回 武寧王陵の墓制・葬制(1) - 出土状況と墓誌の分析を通して</p> <p>第5回 武寧王陵の墓制・葬制(2) - 夫婦合葬の伝統をめぐって</p> <p>第6回 横穴式セン室の出現とその影響(1)</p> <p>第7回 横穴式セン室の出現とその影響(2)</p> <p>第8回 木棺をめぐる諸問題(1)</p> <p>第9回 木棺をめぐる諸問題(2)</p> <p>第10回 飾履をめぐる諸問題</p> <p>第11回 冠をめぐる諸問題</p> <p>第12回 耳飾をめぐる諸問題</p> <p>第13回 陶磁器をめぐる諸問題</p> <p>第14回 東アジア世界からみた武寧王陵</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(小レポートなど)約30%、学期末レポート 約70%											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮古蹟調査事業の展開と「日本」考古学史									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮半島における近代的考古学の調査研究は、20世紀の初めから敗戦を迎えるまで、日本人研究者によって進められた。そしてその調査研究成果は、日本「内地」における考古学にも少なからずの影響を与えている。本講義では、調査に参加した研究者の動向を中心として朝鮮古蹟調査事業を批判的に検討していく中で、「日本」考古学史について受講者と共に考えていきたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮考古学の歴史についての基本的な知識を身につける ・東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究するための視角を身につける ・朝鮮考古学史の諸問題を学んだことを通して、受講者が扱う地域・時代における学史研究についての理解を深めていくことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の通り講義をおこなう。</p> <p>第1回 朝鮮考古学史を学ぶ意味 第2回 朝鮮半島の地理的・歴史的環境 第3回 朝鮮総督府古蹟調査事業の概要(1) 第4回 朝鮮総督府古蹟調査事業の概要(2) 第5回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(1) 1918年度調査 第6回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(2) 1920年度調査 第7回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(3) 1921年度調査 第8回 今西龍による調査研究(1) 1906年度・1907年度調査 第9回 今西龍による調査研究(2) 1913年度・1914年度調査 第10回 今西龍による調査研究(3) 1916年度・1917年度調査 第11回 鳥居龍蔵による調査研究(1) 第12回 鳥居龍蔵による調査研究(2) 第13回 有光教一による調査研究 第14回 戦後の日本における朝鮮考古学研究 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート試験70%
平常点評価30% (講義に対する小レポートなど)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介する遺跡・遺物や参考文献について、できる限り目を通して理解を深めて欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小方 登			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報処理の考古学への応用									
【授業の概要・目的】											
<p>地形データ（デジタル標高モデル：DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用事例を取り上げ、説明する。このような研究を外国で行う場合、地形図や空中写真等のデータの入手性に制約されがちであったが、近年はグローバルなデータも利用可能となったので、中国やシルクロード地域を対象地域として重点的に取り上げる。DEMや衛星画像を分析するため、地理情報システム（GIS）としてQGISを利用する。</p>											
【到達目標】											
<p>地形データ（DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用について、理解を増進することを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1) 1995年に公開された米国偵察衛星写真（CORONA衛星写真）の仕様について説明し、応用可能性を検討する。この衛星写真は高解像度であるほか、撮影時期が古い（1960年代）という点でも利用価値の高いものである。CORONA衛星写真は幾何的歪みが大きいので、適切な幾何補正が必要である。QGISのジオリファレンス機能を利用して幾何補正の方法を実習する。（1, 2, 3回）</p> <p>2) 中東地域に典型的にみられるテル（遺丘）の景観について、CORONA衛星写真を利用した既往研究を紹介し、検討する。（4回）</p> <p>3) 中央アジア乾燥地域のオアシスに見られる都市・集落遺跡を検討する。まず、中国・内モンゴル自治区のエチナ・オアシス（漢代の居延）について、辺塞や屯田の分布と形態を考察する。都市・軍事施設や灌漑施設（用水路）の痕跡のあり方について考察する。（5, 6回）</p> <p>4) 次に、タリム盆地東南部の現オアシス（且末およびミーラン）に隣接して存在する集落遺跡について、衛星画像から判読される用水路網の復原を通して考察する。（7, 8回）</p> <p>5) また、ウズベキスタン・サマルカンド地域における都市・集落遺跡の分布や形態を論ずる。これらには、テパ（遺丘）の形態を取るものと、城壁などの囲郭の形態を取るものがある。（9, 10回）</p> <p>6) 地中海地域におけるフェニキア・ポエニ（カルタゴ）文化に基づく都市の立地とプランについて検討する。これらは海上貿易に基礎をおいていたので、立地のポイントは港湾にあった。これらの都市が、ローマ帝国にどのように引き継がれたかについても考察する。（11, 12回）</p> <p>7) 渤海国の都城などを事例として、7～9世紀の東アジア都城に見られる共通の特徴（日本の平城京・平安京に見られる条坊制など）について検討する。（13, 14回）</p> <p>この授業は実習ではないが、衛星画像やDEMを用いるにあたり、QGISなど無料で利用できるGISソフトウェアの使用法について紹介する。</p> <p>フィードバックについて フィードバック期間あるいはそれ以外でも、授業内容に関する質問等があれば、随時受け付ける。以下に記したオフィスアワー以外の面談は、事前にメール等で日時を決めることが望ましいが、気軽に相談してほしい。</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート試験による（80％）。これ以外に随時小テストを行う（20％）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

メディアセンターの端末や自宅のパソコンにおいて，Google Earthの閲覧などを通して，授業で扱う内容を復習すること。GISソフトウェアQGIS，地形データSRTM/AW3D30，LANDSAT衛星画像は，インターネット上で無料で利用できる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：月曜11:00～12:30

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡村 秀典			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古鏡の研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、そうした史資料を参考にしながら、銅鏡を中心に古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。主に中国古代の銅鏡について概説し、考古学から古代文化とその中世への展開を考える。											
第1回 本講義の視座と問題意識											
第2回 銅鏡のはじまり											
第3回 銅鏡の鑄造											
第4回 銅礼器と銅鏡											
第5回 鏡はどのように使われたのか											
第6回 銅鏡の型式学的研究法											
第7回 戦国時代の銅鏡											
第8回 前漢時代の銅鏡											
第9回 前漢鏡の銘文(1) 楚辞の影響											
第10回 前漢鏡の銘文(2) 陰陽五行思想											
第11回 前漢鏡の銘文(3) 家の観念											
第12回 前漢鏡の紋様 四神の出現											
第13回 王莽鏡論											
第14回 まとめ - 中国古代の銅鏡(1)											
第15回 まとめ - 中国古代の銅鏡(2)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡村秀典 『鏡が語る古代史』 (岩波新書、2017年) ISBN:4004316642

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心を持ち、異文化に対する理解を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡村 秀典			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古鏡の研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、そうした史資料を参考にしながら、銅鏡を中心に古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。主に中国古代の銅鏡について概説し、考古学から古代文化とその中世への展開を考える。											
第1回 本講義の視座と問題意識											
第2回 マンネリズムに陥る「尚方」											
第3回 「青蓋」の志 淮派の形成											
第4回 「名工杜氏」伝											
第5回 自立する鏡工たち											
第6回 民間に題材を求めた画像鏡 呉派の成立											
第7回 淮派の受容した画像鏡											
第8回 四川における広漢派の成立											
第9回 画紋帯神獣鏡の出現											
第10回 うつろう鏡工たち 東方にひろがる神獣鏡											
第11回 会稽派の登場											
第12回 呉の神獣鏡											
第13回 魏晋の鏡											
第14回 まとめ - 中国古代の銅鏡 (3)											
第15回 まとめ - 中国古代の銅鏡 (4)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡村秀典 『鏡が語る古代史』 (岩波新書) ISBN:4004316642

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心を持ち、異文化に対する理解を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 杉山 淳司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		わが国固有の用材観や木の文化に触れながら、木材の仕組みや分析により得られる情報について学習する。									
【授業の概要・目的】											
<p>木材は樹木として長い間自らの体を支え、また材として我々の文化や生活を支えてきた。今日では環境保全はもとより、持続可能な資源としてもますます注目が高まっている。本講義では、木材の多様かつ丈夫な仕組みを歴史的、考古的な木製品や建築物と関連させて学習する。また、ルーペや顕微鏡による木材識別実習や大学周辺の野外樹木識別実習や建造物見学(合せて3ないし4回)などを通して、木材そのものや木製品調査に必要な手法を学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>木材の形成、物性、利用について概観することで、われわれの用材観を考察する基礎的な知識を養う。 木材組織と樹木観察実習を通して、標準的な木材に関する知識やそれらの識別法について自主的に学べる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と進め方。 2. 木材とは 3. 木材科学の基礎 4. 樹木のみわけかた(吉田構内) 5. 樹木のみわけかた(吉田構内) 6. 樹木のみわけかた(吉田山) 7. 針葉樹材・広葉樹材の巨視的特徴 8. 針葉樹材・広葉樹材の解剖学的特徴 9. 樹種識別の手法のいろいろ 10. 年輪年代・年輪気候のはなし 11. 歴史的建造物の木材 12. 遺跡から出土する木材 13. 楽器や工芸に見る木材 14. 木材のデータベースとその利活用について 15. フィードバック(質問事項に対する回答) <p>それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への積極性 20点）、小レポート（2回, 20点x2）ならびに期末レポート（40点）により評価するが、独自の工夫がみられるものについては高い点を与える。

[教科書]

対面授業の場合：

テキストについては印刷物等を適宜配布する。また、実習に必要な観察用サンプルやルーペを配布する。

対面授業ができない場合：

Pandaシステムにテキストを掲示する。また、実習用のキットについては受け取り日時と場所を指定するか、郵送とする。

[参考書等]

（参考書）

自習用参考書として：

林 将之 葉で見分ける樹木 小学館
佐竹他 フィールド版 日本の野生植物 木本、平凡社
佐伯 浩 この木なんの木 海青社
尼川大録、長田武正、検索入門 樹木 、樹木 、保育社
中川重年 検索入門 針葉樹、保育社
山崎隆之 一度は拝したい京都の仏像 学研新書
鈴木三男 日本人と木の文化、八坂書房
小原二郎 木の文化 鹿島出版会

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜講義中に指示する。具体的には：

- 1) 身の回りの木製品の観察とその報告。
- 2) 樹木の観察とその報告。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系114

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鏡と国家形成									
【授業の概要・目的】											
<p>弥生・古墳時代の銅鏡にたいして、研究者の関心はもちろん、世間の関心も高い。三角縁神獣鏡が出土すると、新聞などで大きく報道される。テレビや一般書などにおいて当該期の鏡は、巫女的な人物やスピリチュアルなイメージで理解される傾向が強いが、実際に鏡は政治性の高い器物であった。本講義では、弥生時代から古墳時代にいたるまでの銅鏡をとりあげ、国家形成理論のひとつ「権力資源論」を導きの糸にしなが、ら、「イデオロギー」「経済」「政治」「領域」「社会関係」の側面から、鏡が日本列島の国家形成に決定的な役割をはたしたことを明示する。</p>											
【到達目標】											
<p>銅鏡という特定の器物から国家形成という広大な歴史事象に迫るための、考古学的な手法や手順を理解できるようになる。器物がはたす社会的役割への感性を涵養できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 弥生～古墳時代の鏡【4週】 甕棺墓、中国鏡、青銅器、前方後円墳、三角縁神獣鏡、倭製鏡 3. 国家形成の論理【1週】 4. 鏡とイデオロギー操作【2週】 凶像、沖ノ島、副葬/非副葬鏡 5. 鏡の配布【3週】 邪馬台国、倭王権、同範鏡論、威信財論 6. 鏡の保有【2週】 首長墓系譜、人骨 7. 鏡と国家形成【2週】 倭国、国家形成、都市国家/領域国家 * 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

弥生～古墳時代に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古墳と政治秩序									
【授業の概要・目的】											
<p>ここしばらく古墳が世間で人気を博している。その巨大さと前方後円墳を頂点とする複数の墳形、そして広域分布するありようを手がかりに、築造期である古墳時代の政治構造を究明する研究が推進されてきた。</p> <p>本講義では、「古墳と政治秩序」に関する既往の研究の到達点と問題点を承けて、最新のデータと編年案に即して、古墳の階層構成 被葬者像 古墳の機能的役割 などに焦点をあてつつ、古墳の政治史的意義の解明につとめる。</p>											
【到達目標】											
<p>古墳は墳形・付帯施設・埋葬施設・副葬品・外表施設などからなる複合体であり、しかも古墳は局地・小地域・地域・列島広域でさまざまな存在様態を示す。このような複雑な古墳のありようを認識するための分析視点を学びとり、歴史的な問題に迫る学問的方法を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】</p> <p>2. 古墳と政治史【4週】 前方後円墳体制、前方後円墳秩序、前方後円墳国家、首長墓系譜、在地首長制論</p> <p>3. 大和・河内の巨大前方後円墳群【2週】 古市古墳群、百舌鳥古墳群、大和古墳群、佐紀盾列古墳群、馬見古墳群</p> <p>4. 畿内の大型古墳群【2週】 玉手山古墳群、弁天山古墳群、向日丘陵古墳群</p> <p>5. 畿内の階層構成【1週】</p> <p>6. 各地の階層構成【3週】 東国の古墳、西国の古墳</p> <p>7. 古墳と政治秩序【2週】 国造、県主、帝紀、国家形成</p> <p>* 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都橘大学 文学部 准教授 中久保 辰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代の地域社会と東アジア交流									
【授業の概要・目的】											
<p>日本列島各地の古代社会は、中国大陸や朝鮮半島各地の地域社会とともに東アジア世界を形成し、人的交流や物資流通を媒介として関係を結びつつ、歩んできた。</p> <p>この授業は、Glocalな視点から古代の地域社会と異文化受容に関する考古学研究の現状を把握し、これからの研究課題を習得することのできる講義である。古墳時代中期から平安時代前期を対象に、最新の発掘調査成果とともに、土器、集落、歴史的景観に関する研究現状と課題を考察する。そして、東アジア交流が日本古代社会に与えた影響について、考古資料から考究する方法を体得できるようになることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代東アジア世界の異文化交流に関する幅広い知識を獲得し、国際的な視座と地域に根差した視点という複眼的な視野を身につけることができる。 ・ 古墳時代から平安時代を中心とした考古学的研究手法の一端を把握することができる。 ・ 日本古代対外交流に関する研究最前線を知ることができるとともに、考古資料の観察眼が習得できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画で講義を進める予定であるが、各項目の講義の順序は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。</p> <p>第1回：ガイダンス 考古学的手法による地域史の叙述 第2回：遺跡動態把握の基礎（1） 古墳時代土器編年の現状と課題 第3回：遺跡動態把握の基礎（2） 飛鳥・奈良時代土器編年の現状と課題 第4回：遺跡動態把握の基礎（3） 平安時代土器編年の現状と課題 第5回：古環境復元の最前線と集落研究 第6回：「倭の五王」の時代と地域社会の変容（1） 第7回：「倭の五王」の時代と地域社会の変容（2） 第8回：物部氏の盛衰と布留遺跡（1） 第9回：物部氏の盛衰と布留遺跡（2） 第10回：考古学からよむ『播磨国風土記』（1） 第11回：考古学からよむ『播磨国風土記』（2） 第12回：考古学が復元する古代食の世界と東アジア交流 第13回：唐風文化と国風文化（1） 第14回：唐風文化と国風文化（2） 第15回：東アジア交流と地域社会</p>											
<p>それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。</p>											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（授業中課題の回答内容、小テスト）約40%
学期末レポート 約60%

【教科書】

使用しない
適宜、資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）

大橋信弥・花田勝広（編）『ヤマト王権と渡来人』（サンライズ出版、2015年）ISBN:978-4-88325-274-9（古墳時代の渡来人を勉強するうえで重要な文献となります。）

兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室『『播磨国風土記』の古代史』（神戸新聞総合出版センター、2021年）ISBN:978-4343011312

（関連URL）

<https://sitereports.nabunken.go.jp>(講義中に紹介する遺跡の発掘調査報告書を探し、閲覧する際に参考になります。)

【授業外学修（予習・復習）等】

感染対策を十全に行ったうえで、博物館や資料館にある古墳出土品や集落遺跡出土古代土器を熟覧すると、講義の内容がより深く理解できると思いますので、おすすめします。

（その他（オフィスアワー等））

質問などは、メールなどで受け付けることも可能です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系117

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 助教 文学研究科 助教		吉井 秀夫 下垣 仁志 富井 眞理 内記	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		East Asian Origins: Ancient History and Material Culture									
[授業の概要・目的]											
<p>In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US. The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.</p>											
[到達目標]											
By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.											
[授業計画と内容]											
<p>This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>1 Introduction (1 week) Introduction of the special lecture.</p> <p>2 History of the East Asian archaeology in Japan (3weeks) This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,</p> <p>3 Prehistory in Japan (3weeks) This section will outline the history of the study of Japanese prehistory, and focuses on the material culture of Mesolithic (called “Jomon” period) as well as Paleolithic and Early Neolithic, with showing some researches to exploit the potential for contributing to the world prehistory.</p> <p>4 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(3weeks) This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods and toilet) from structural remains and artifacts excavated in Japan.</p> <p>5 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks) In order to assemble knowledge about “origins” of Buddhist culture, Kyoto University has conducted</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

researches in Buddhist sites in China and Central Asia. In the lectures, how Buddhist cultures were transferred into East Asia will be discussed on the basis of archaeological information obtained by Kyoto University.

6 Discussion(1 week)

7 Feedback(1week)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

【教科書】

使用しない

Not Used

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

To be announced in class

【授業外学修(予習・復習)等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 大賀 克彦 特任講師			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		玉の考古学									
【授業の概要・目的】											
<p>玉は時代や地域を問わずに出現する極めて普遍的な考古資料であるとともに、広く世界との繋がりを示す資料である。また、近年の研究の進捗により、従来の認識が劇的に更新されつつある題材でもある。この講義では、弥生時代から古墳時代の日本列島において生産された、もしくは流通した玉類の分類的な検討を行ったうえで、その流通や消費の様相から、社会構造の生成や変容について考察することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>弥生時代から古墳時代の日本列島において生産された、もしくは流通した玉類に関して分類的な位置付けを行うことが可能になるとともに、玉類の生産や流通がどのように社会構造を生成もしくは変容させたか説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>講義は以下の内容で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 玉の研究方法 第2回 ガラスの材質分類と生産地 第3回 弥生時代における玉生産の開始と「碧玉」製管玉の流通 第4回 弥生時代中期後半における玉の生産と流通 第5回 玉生産における鉄器の導入と生産体制の再編 第6回 インド・パシフィックビーズの大量流入と紀元一世紀の社会変革 第7回 玉流通の地域性と弥生墳丘墓 第8回 翡翠製勾玉の変遷と倭王権 第9回 古墳時代前期の威信財システムと玉生産 第10回 威信財システムの更新と王権膝下の玉生産 第11回 雄略朝の復古再生 第12回 玉生産におけるニューモード 第13回 磐井の乱以降の対外交渉 第14回 玉の生産・流通と新式群集墳 第15回 古代的玉生産への移行 											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）および学期末のレポート（70％）により成績を評価する。

[教科書]

使用しない
必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

河村好光 『倭の玉器』（青木書店，2010）ISBN:978-4-250-21001-3

谷澤亜里 『玉からみた古墳時代の開始と社会変革』（同成社，2020）ISBN:978-4-88621-835-3

[授業外学修（予習・復習）等]

博物館等において、出土資料を実際に見ておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

講義後に質問を受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		南山大学 人文学部 准教授 上峯 篤史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		石器研究の思考と実践									
【授業の概要・目的】											
<p>石器はその時間的・空間的な普遍性とは裏腹に、研究資料としての扱い方や可能性についての理解が浸透しておらず、石器研究は敷居が高い独特な研究領域を作っているようにとらえられる向きがある。この苦手意識の払拭こそ、この授業が目指すところである。授業では、日本とその周辺の石器文化（旧石器・新石器）を遍く取り上げながら、考古資料としての石器からどのような手続きで、どのような情報を抽出できるのかを論じる。具体的な研究事例にもとづいた解説と、授業担当者が持参する石器を使った実習を通じて、旧石器・新石器（縄文・弥生石器）に関わる基礎知識と、石器研究に通底する考え方を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>国内外の石器文化の大まかな特徴、地域性や変遷の概略を説明できるようになる。 既存の石器研究論文を、立論の根拠や方法に注目して批判的に読めるようになる。 石器研究における実験考古学的手法やフィールド調査の意義を、具体例をあげて説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>（開講日時はKULASISを通して連絡）</p> <p>第1回石器研究の方法 第2回石器の観察法 第3回石器製作技術の復原 第4回技術研究の可能性 第5回世界の旧石器文化 第6回東アジアの旧石器文化 第7回日本の旧石器文化 第8回近畿地方の縄文・弥生石器 第9回石器の使用実験 第10回石器使用痕の観察 第11回表面痕跡研究の可能性 第12回石器石材と地質環境 第13回旧石器時代遺跡の年代決定 第14回旧石器時代遺跡の堆積学 第15回石材原産地遺跡の最新研究</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業後に課すレポート(50%), 平常点(授業への取り組み状況, 50%)で評価する。

[教科書]

教科書は使用しない。授業前に, レジユメ等を提供する。

[参考書等]

(参考書)

松藤和人 『日本と東アジアの旧石器考古学』(雄山閣) ISBN:9784639021186

上峯篤史 『縄文石器: その視角と方法』(京都大学学術出版会) ISBN:9784814001453

佐藤宏之 『旧石器時代: 日本文化のはじまり』(敬文舎) ISBN:9784906822300

その他, 授業時に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

各日の授業内容は関連しているため, 毎日の復習につとめ, 翌日の講義に備えてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

この機会に石器を学んでみよう, という意欲のある学生を歓迎する。

担当者の研究活動については, 以下のURLを参照のこと。

<https://site-1725902-9497-6180.mystrikingly.com/>

オフィスアワーの詳細については, KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千葉 豊 文学研究科 助教 伊藤 淳史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鴨東地域の考古学 - 発掘調査の成果から -									
【授業の概要・目的】											
<p>京都大学の吉田キャンパスは、ほぼ全域が遺跡の上に位置している。現在の文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センターの前身の組織も含めた40年余にわたる発掘調査によって、重要な考古情報が膨大に蓄積されている。本講義では、大学の位置する比叡山の西南麓、鴨川東方一帯の鴨東と呼ばれる地域の歴史を、こうした発掘調査の成果から再構成するとともに、それらの考古学研究上の意義について認識を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>考古学の最も基礎的な目的である、遺跡・遺物から歴史を復元していく研究手法の特性やひろがりについて理解できるようになる。また、その理解を通じて、自らが学び生活する地域の文化財についての重要性を認識するとともに、考古学調査者や研究者として実証的に資料を取り扱い活用する実践力を養うことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に記す大別テーマに関して、それぞれ1～4週の授業を計画する。講義に際しては、構内の遺跡を実際に訪れる野外臨検や、実物資料を前にした議論などを随時とり入れ、各自の意見も求めながら理解や問題意識を深めていく形態を予定する。</p>											
<p>第1講 イン트로ダクション（千葉・伊藤） 第2講～第5講 比叡山西南麓の旧石器・縄文時代（千葉） 活動の舞台と最古の人類文化 比叡山西南麓の縄文遺跡 遺跡を群としてとらえる 比叡山西南麓の縄文遺跡 集落の移り変わりとその特質 京大構内の縄文遺跡を歩く 第6講～第8講 弥生時代研究と鴨東地域の調査成果（伊藤） 弥生時代のはじまりをめぐる諸説と弥生前期水田の発掘調査 中期弥生土器の地域色と京都大学構内出土の土器群 初期倭王権成立期の京都盆地と鴨東地域の状況 第9講 古墳時代の鴨東地域 副葬品や供献遺物にみる吉田二本松古墳群の特質 （伊藤） 第10講 奈良～平安時代の鴨東地域 平安京郊外の開発と鋳造遺構発見の意義 （伊藤） 第11講～第12講 中世考古学の進展と京都大学構内遺跡（伊藤） 中世土師器（かわらけ）・陶磁器編年の現状と課題 中世遺跡と文書史料でさぐる鴨東の開発と活動者たち 第13講～第15講 近世・近代の鴨東地域 土地利用の変遷 （千葉） 江戸時代の鴨東地域の特質 都市近郊農村としての展開</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

考古資料と美術作品 乾山焼と連月焼
考古資料にみる近代化の波 幕末藩邸の設置から京都帝国大学まで

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回講義の発言や意見表明などからうかがわれる参加意欲で評価する）

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指示された論考や報告書は必ず熟読し内容を把握しておくこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏塔と仏舎利の考古学									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インドでは、釈迦の入滅後、その舎利（遺骨）を分配して各地に仏塔が建立されたと伝えられている。文献史料によれば、漢代には仏教が中国へと伝えられ、おそくとも三国時代には仏舎利も伝来していたという。ただし、現在のところ中国では、4世紀以前にさかのぼる仏舎利の遺物やその埋納遺構は確認されておらず、5世紀中葉の北魏の舎利容器が考古学的に確認できる最古の実例となっている。塔下に埋納された舎利とその荘厳具は、仏教にかかわる諸文化のなかでも、かなり保守的な側面をもつ一方で、6～7世紀になると塔下の舎利埋納施設は大きな変化をとげる。この講義では、仏塔への仏舎利埋納を手がかりとして、インド・ガンダーラから中国への仏塔伝来、そして朝鮮半島・日本列島への東伝の具体的様相をさぐる。それにより、アジア地域に通底する仏舎利埋納の伝統と、中国や日本の仏塔の特質を明確にすることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>仏教東伝の過程においては、中国に伝来し、中国で変容をとげた仏教文化が、東アジア各地へとひろがっていった。この講義では、仏塔への舎利埋納を主要な題材として、仏教寺院の中国的変容、そして朝鮮半島から日本列島への伝播と変容の過程を理解することを目標としている。また、この時代の仏教寺院を研究するためには、考古資料のみならず、文献史料・図像資料をあわせて検討することが必要であり、歴史考古学・美術考古学の方法論や課題を学ぶことを本講義のもうひとつの目標としたい。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> 仏塔と仏舎利の研究の諸問題 インド仏塔の舎利埋納 ガンダーラ仏塔の舎利埋納 中国に伝来した仏舎利 東晋・南朝の舎利埋納と舎利容器 北魏興安二年舎利石函の図像学 北魏太和五年石函の調査と研究 東魏・北齊仏塔の舎利埋納 百濟仏塔の舎利埋納 新羅仏塔の舎利埋納 隋代仏塔の舎利埋納 地宮の成立 仏塔と墓塔 法門寺の発見 仏塔と仏舎利の伝来 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

向井佑介『中国初期仏塔の研究』（臨川書店，2020年）ISBN:9784653044390

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教寺院の空間構造									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初期仏教寺院の伽藍配置が仏塔を中心とした構成であったことは、文献史料にもとづく諸先学の研究によって指摘されており、近年実際に発掘された南北朝時代（5～6世紀）の仏教寺院も確かに塔を中心としたものが多い。しかし、北朝末から隋唐時代（6～10世紀）になると、都城寺院の大規模化にともなって寺院の内部構造は複雑になり、伽藍配置も多様化していく傾向がみとれる。一方、古代日本では、塔を中心とした飛鳥寺式・四天王寺式から塔と金堂を並置した法隆寺式・法起寺式、金堂前に二塔を並置した薬師寺式へと変化していったことが知られているが、その意味についてはさまざまな説が出され、その議論は決着していない。この講義では、インドから中国、そして朝鮮半島と日本列島への仏教寺院東伝の過程を明確にするとともに、寺院の空間構造という視点から、東アジア仏教寺院の特質をさぐることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>インド・ガンダーラから中国へと伝来した仏教寺院は、中国伝統建築と結合し、新たな寺院建築の様式を生み出した。東アジアの仏教文化は、インド文化と中国文化との融合を大きな特色としつつも、朝鮮半島から日本列島への伝播の過程でそれぞれの地域の独自要素も発現している。この講義では、インド・ガンダーラから中国、朝鮮半島、日本列島へと仏教寺院が東漸するにしたがって、その空間構造にいかなる変化が生じたのか、近年の考古学的調査によって明らかになってきた東アジア各地の寺院の具体的様相とその意義を理解することを目標とする。同時に、仏教寺院を中心とした歴史考古学や美術考古学・建築考古学の方法と成果について理解を深めることを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> 仏教寺院の東方伝播をめぐる問題 インド仏教寺院の空間構造 ガンダーラ仏教寺院の伽藍配置 中国初期仏教寺院の伽藍配置 北魏仏教寺院の伽藍配置 雲岡石窟の寺院建築構造 北魏洛陽永寧寺の九重塔 東魏・北齊寺院の建築と伽藍配置 新発見の南朝仏教寺院 高句麗仏教寺院の伽藍配置 百濟仏教寺院の伽藍配置 新羅仏教寺院の伽藍配置 法隆寺式伽藍配置の源流 双塔寺院の成立過程 東アジア仏教寺院の特質 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する。

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

向井佑介『中国初期仏塔の研究』（臨川書店，2020年）ISBN:9784653044390

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学系123

科目ナンバリング		G-LET27 77042 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習II) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、担当者(受講者)による発表とその後の討議をつうじて、考古学の具体的な方法論と知識を身につけるとともに、発表と討論の作法を習得する。さらに、学部生は卒業論文に向けて自身の研究テーマを絞り、大学院生はみずからの研究をいっそう深化させることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>考古資料や関連文献から情報をひきだし、具体的な方法論に即して考察を構築する手法を習得できるようになる。発表内容を理解したうえで、より高次の議論へと発展させるための討論の作法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>年間を通じて、考古学に関する発表と討論の技術を磨いてゆく。前期は、各自の問題意識と関心にあわせ、研究発表と課題論文の発表などを課す(参加人数に応じて後者を省略する場合もある)。後期は、受講者が各自の研究関心に沿ったテーマを設定し、それに関する研究報告と討論をおこなう。初回に受講人数に合わせて発表予定を組むので、万障繰りあわせて出席すること。 * コロナ禍の状況次第では、授業方式を非対面などに切り替える事態も起こりうる。変更時には可及的速やかに連絡をするので、受講生は授業関連の連絡をこまめにチェックすること。</p> <p>受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。</p> <p>【前期】 第1回 前期の授業計画の説明・報告順序の設定など 第2～15回 報告および討論</p> <p>【後期】 第1～15回 各自の研究テーマに関する報告および討論</p>											
【履修要件】											
<p>考古学の専門性がかなり高くなるので、考古学実習をすでに履修したか、履修予定の学生であることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表内容・討議への参加度合い・レポートの出来栄などから総合的に評価する。発表者の無断欠席は、単位認定を放棄する行為とみなす。</p>											
----- 考古学(演習II)(2)へ続く -----											

考古学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

与えられた課題をこなし、発表・レポート作成に結実させるべく、関連遺物・遺跡の積極的な観察・踏査をおこなうこと。また各自、博物館見学・現地説明会見学・資料調査・発掘調査に積極的に参加・関与することで、テーマの発見と考古学への知見を深められたい。

(その他(オフィスアワー等))

課題をクリアすべく、できるだけ多くの文献にあたり知識を深められたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 7M334 SJ38										
授業科目名 <英訳>		考古学(演習Ⅳ) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫	文学研究科 教授 下垣 仁志	文学研究科 准教授 千葉 豊		
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語	
題目		修士論文指導										
[授業の概要・目的]												
修士論文作成を目的とした研究に関して中間発表をおこない、教員や他の出席者から批評を受け、よりよい論文の完成をめざす。各人が研究の進捗状況にしたがって、段階的に成果を発表する。												
[到達目標]												
授業での中間発表およびそれに関する質疑応答をもとに、修士論文を書き上げる。												
[授業計画と内容]												
5月の連休頃までに各自研究テーマを確定する。前期末までの発表では、そのテーマにかかわる研究史や問題点を整理し、夏休みを中心とした作業計画・研究計画を提示する。後期前半には、夏休み中におこなった資料収集成果やその分析成果の途中経過を整理・発表する。後期後半の報告では、論文目次案を提示した上で、研究成果を総括する。受講者数により日程は調整するが、おおむね以下の通りで進める予定である。												
前期												
第1回 ガイダンス												
第2～8回 研究テーマの検討												
第9～15回 第1回報告												
後期												
第1～7回 第2回報告												
第8～15回 第3回報告												
[履修要件]												
修士論文の作成と提出が前提となる。 本演習とは別に、忘れずに修士論文を登録すること。												
[成績評価の方法・観点]												
演習時の発表内容で評価する。												
[教科書]												
使用しない												
----- 考古学(演習Ⅳ)(2)へ続く -----												

考古学(演習Ⅳ)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

卒業論文を書き上げるために、できる限りの時間を用いて資料収集・遺物の実見と検討・分析などの作業を進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはとくに設けないが、修士論文作成に関する相談には、常時、対応する。電話やメールなどで、あらかじめ教員のアポを取ること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。